

国立大学アドミッションセンター

連絡会議ニュース

NATIONAL
UNIVERSITY
ADMISSION
CENTERS

第8号
2011年2月

国立大学アドミッションセンター連絡会議 第8回総会開催

平成22年（2010年）6月7日（月）12時30分から、北九州市小倉北区の北九州国際会議場の会議室において、国立大学アドミッションセンター連絡会議第8回総会が開催されました。

今回の総会には、加盟24大学（平成22年度から加盟予定の2大学を含む）及びオブザーバー（新潟大学）から計63名が出席しました。

総会では、山形大学、佐賀大学の新規加盟の承認、会則の改正、事務局からの報告が行われました。引き続き、大学からの報告として、北海道大学 池田文人准教授から「総合入試への期待」について、また、九州大学 林 篤裕教授から「九州大学21世紀プログラム」について講演していただき、参加者との質疑応答及び意見交換が行われ、14時30分に閉会しました。

以下は、総会議事要録、総会における会長挨拶の要旨、池田准教授、林教授の講演要旨です。紙面の都合上、全文掲載できませんことをご了承くださるようお願いいたします。



国立大学アドミッションセンター連絡会議 第8回総会議事要録

日時 平成22年6月7日(月) 12時30分～14時30分
場所 北九州国際会議場 国際会議室
出席者 加盟大学からの出席者及びオブザーバー出席者 計63名

議事に先立ち、丸野会長（九州大学アドミッションセンター長）から挨拶があった。

議 事

(1) 新加盟の承認について（丸野会長）

山形大学エンロールメント・マネジメント室及び佐賀大学アドミッションセンターからの加盟申請について説明があり、承認された。

(2) 会則の改正について（丸野会長）

新加盟機関の承認及び下記機関からの名称変更の要望に伴い、資料1のとおり会則の改正が承認された。

高知大学「アドミッションセンター」を「総合教育センター」に変更

(3) 事務局からの報告（林事務局長）

・会計報告について

連絡会議運営費規程第4条の規定により資料2に基づき会計報告が行われ、承認された。

なお、繰越額が年々増加していることは好ましいことではなく、講演者の旅費支弁、会費の値下げ、企画の提案等について検討していきたい旨の発言があった。

(4) 大学からの活動等報告（林事務局長）

北海道大学 池田 文人 准教授から「総合入試への期待」（資料3）と題して講演が行われた後、意見交換が行われた。

次いで、九州大学 林 篤裕 教授から「九州大学21世紀プログラム」（資料4）と題して講演が行われた後、意見交換が行われた。

(5) その他

なし

(以上)

挨拶要旨

国立大学アドミッションセンター連絡会議会長

丸野 俊一



ただいま紹介いただきました、九州大学アドミッションセンター長の丸野でございます。一言ご挨拶を申し上げます。

大変暑い中、九州までおいでいただき、どうもありがとうございます。

昨年度は入学試験の新型インフルエンザへの対応という問題があり、おそらく先生方は大変なご苦勞をされたこととお察しします。

さて、国立大学は法人化から6年が経過しますが、大学独自のユニークな大学経営

の在り方がますます問われてきています。それだけにそれぞれの大学におかれては斬新なアイデアのもとにその実現に向けて努力精進されているのではないかと思います。

また第1期の中期目標・中期計画が終了し、第2期の中期目標・計画については様々な角度から自分たちの大学の個性が十分に発揮出来るように運営の在り方を見直し、準備されたのではないかと推察致します。例えばアドミッションポリシーやディプロマポリシーを明確化して、学生が出口（卒業）からみたときに、出口の段階でどのような知識や技能を習得しているか、そういう観点でのカリキュラム体系の見直しや基礎教育の在り方を問い直すといったことなどが重要な検討課題・議論になったのではないかと思います。

私たち九州大学においても基礎教育から専門教育に向けて、体系化されたカリキュラムをいかに見直すか、現在鋭意検討し努力しているところですが、その中でも、とりわけ少子化の時代に優秀な学生諸君をいかに確保するか、その掘り起こしをどうするかということが、まさに大学の経営の核となる部分だと考えています。

それぞれの大学におかれても教育こそが、大学の発展・充実に繋がるのだという考えで、優秀な人材の確保に日々努力されているのではないかと思います。アドミッションセンターの先生方は、大学の中ではそういう点で重要な責務を担っていかねばならない立場にいらっしゃるのだと思います。

本日の国立大学アドミッションセンター連絡会議総会の中で、それぞれの大学が持っている様々な情報を交換し合い、優秀な人材確保のために、あるいは大学の運営、発展のために有意義な情報交換の場になればと期待し、簡単ではありますが、挨拶にかえさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

大学からの報告①

総合入試への期待

北海道大学アドミッションセンター准教授

池田 文人

北海道大学では平成23年度から「総合入試」という名称で大括り入試を導入する。これは学部を特定せずに、文系学部（4学部分、100名）、理系学部（8学部分、1027名）という2つの枠で学生を入学させ、入学後一年間は学部・学科にとらわれない教育を行った後にそれぞれの希望学部に進学してもらうという仕組みである。今回は、北海道大学アドミッションセンターの池田文人先生に、この総合入試を導入するに至った経緯や入学後の体制についてご紹介いただいた。

まず、導入に至った理由は以下の3点である。近年の入学者の特性に合わせ、また多岐にわたる学問分野の理解のためにも有効な方策と考えられる。加えて、初年次教育については、全面的に見直してコアカリキュラムを策定し充実した共通教育を実現する予定である。

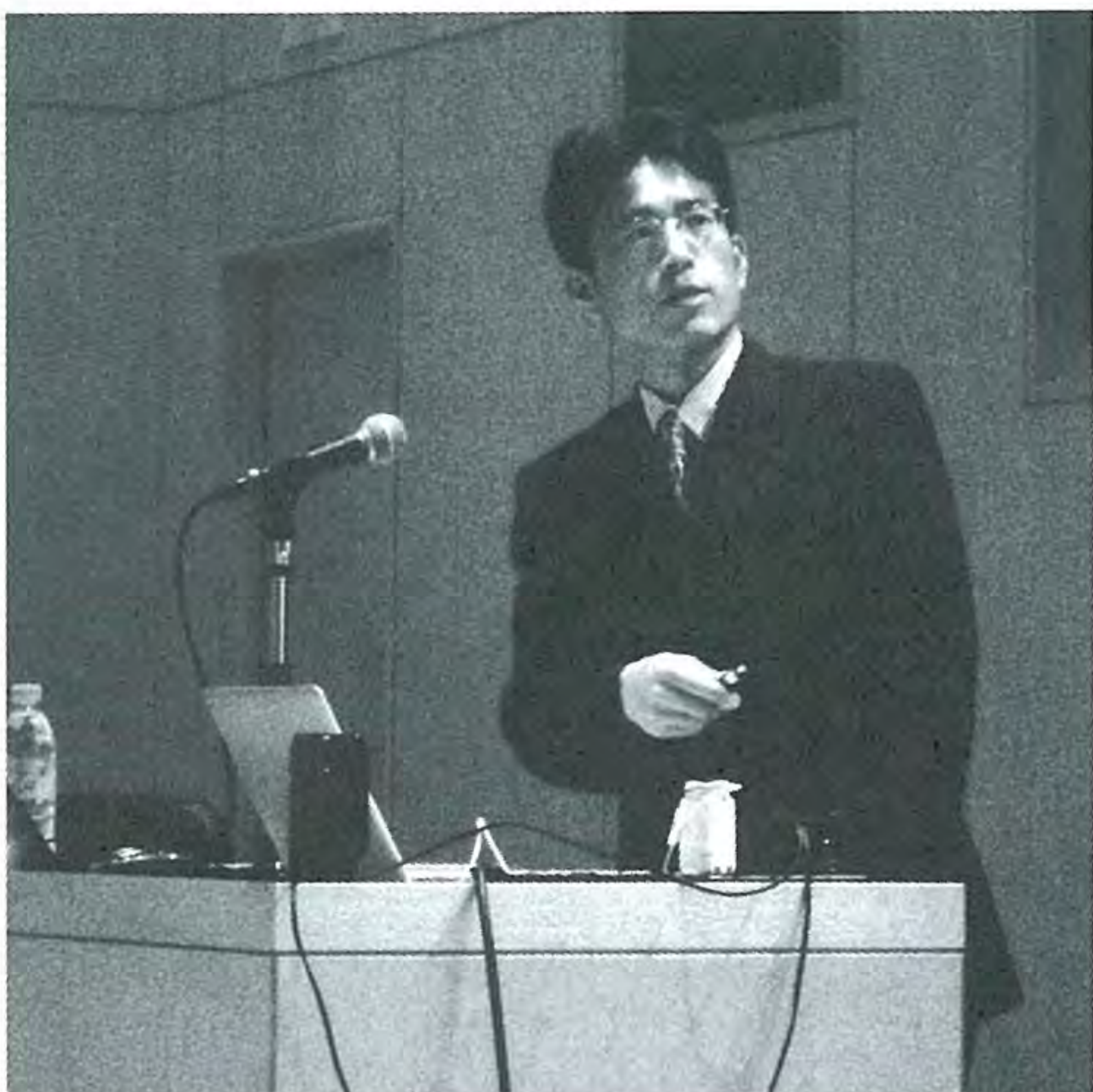
- ・未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消
- ・学問分野の細分化・融合化への対応
- ・初年次教育における共通教育の充実

また、入学後の学生支援体制についても、アカデミック・サポートセンターを立ち上げ、進路相談や各学部・学科で行われている教育や研究内容を紹介するスタッフを配置している。

他に、2年次の学部・学科への移行については、本人の希望と1年次の成績を勘案して決定するために、いくつかのルールが用意され、Webシステムも整備しているということであった。

講演の後、質疑応答が行われ、以下のような質問と意見交換があった。

- ・希望しない学部・学科には進学させないというルールの運用方法
- ・初年次教育の内容や、それを担当する教員構成
- ・移行時の入試成績の取り扱い
- ・医系学部の定員
- ・アドミッションポリシーとの整合性
- ・高校側の反応



なお、北海道大学では、総合入試に関する説明資料がWebに掲載されており、今回はそれを資料として掲載する許可をいただいた。

URL: <http://www.hokudai.ac.jp/bureau/nyu/pdf/sogo-ppt.pdf>





総合入試案内

北海道大学アドミッションセンター

総合入試を導入した理由

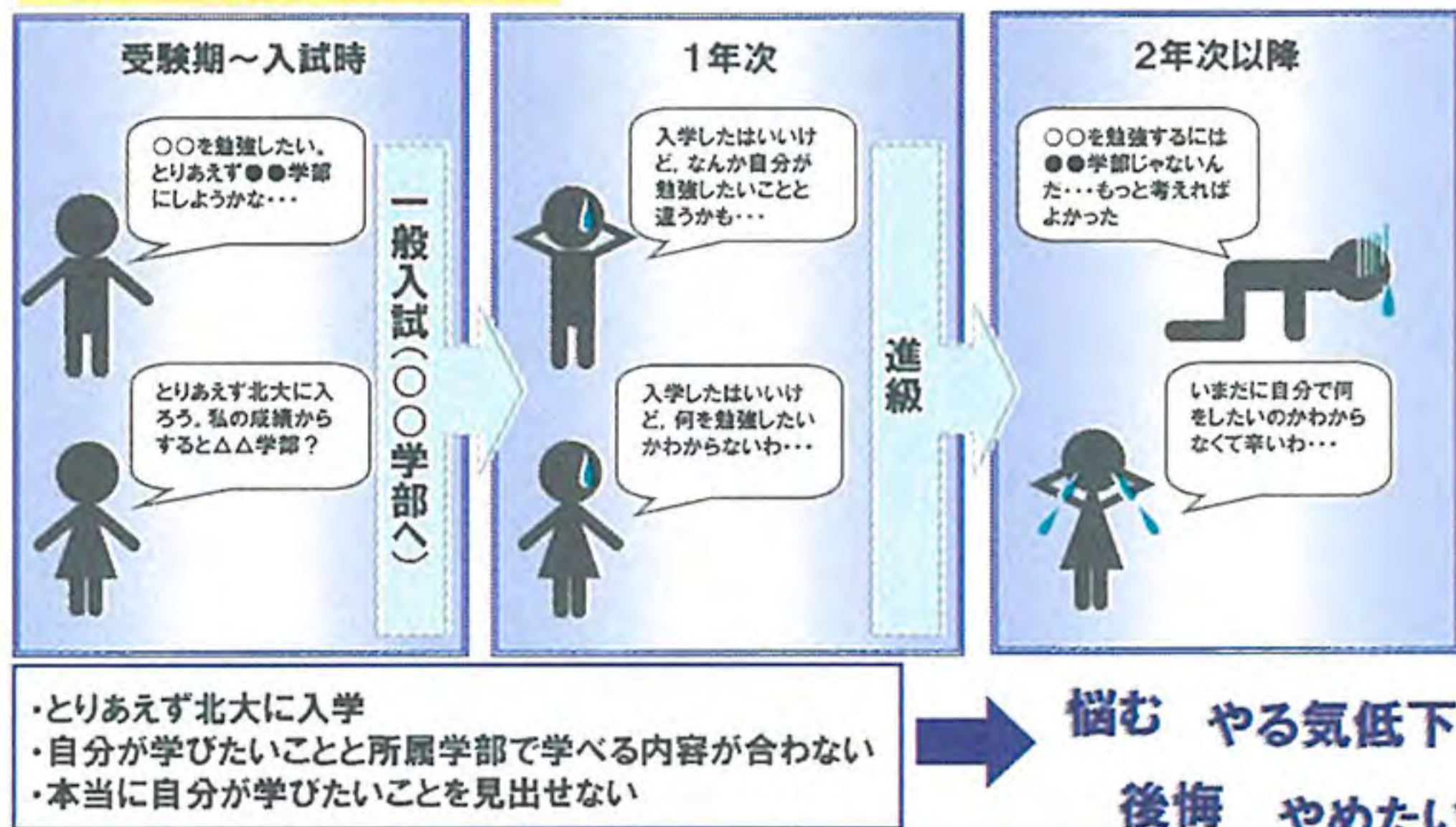
未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消

学問分野の細分化・融合化への対応

初年次教育における共通教育の充実

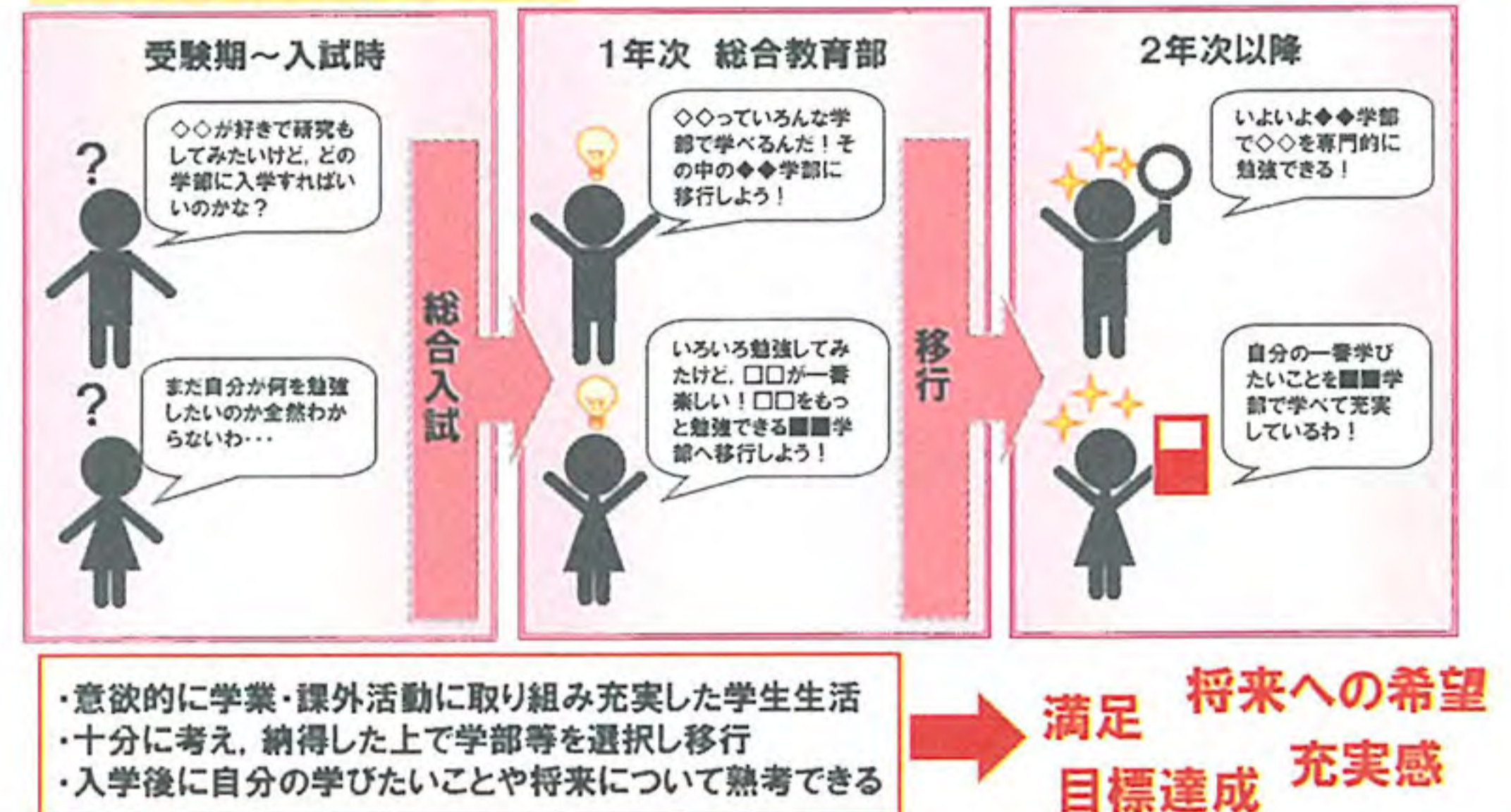
未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消(1)

受験期に「学部」を決める方式

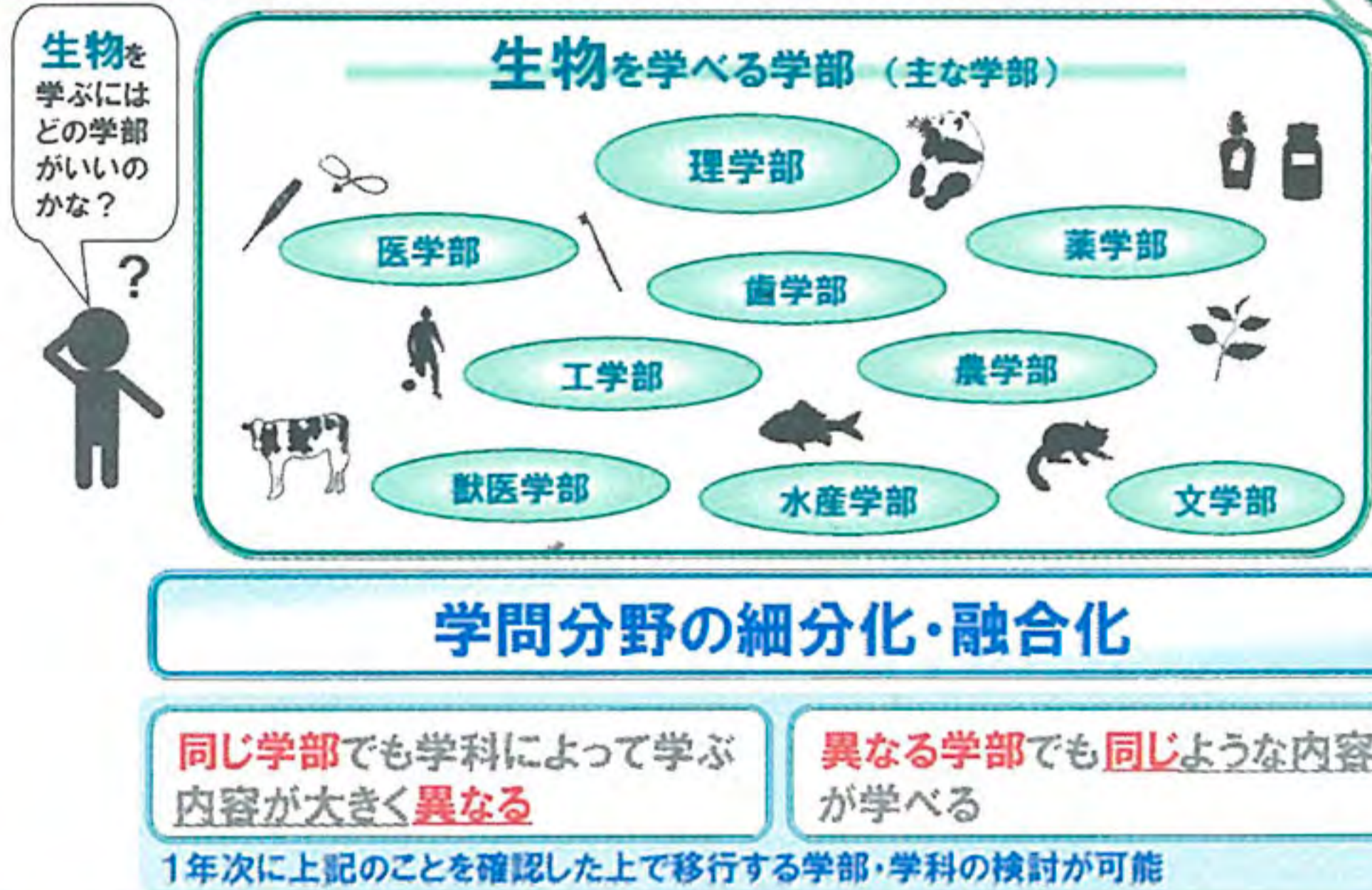


未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消(2)

入学後に「学部」を決める方式



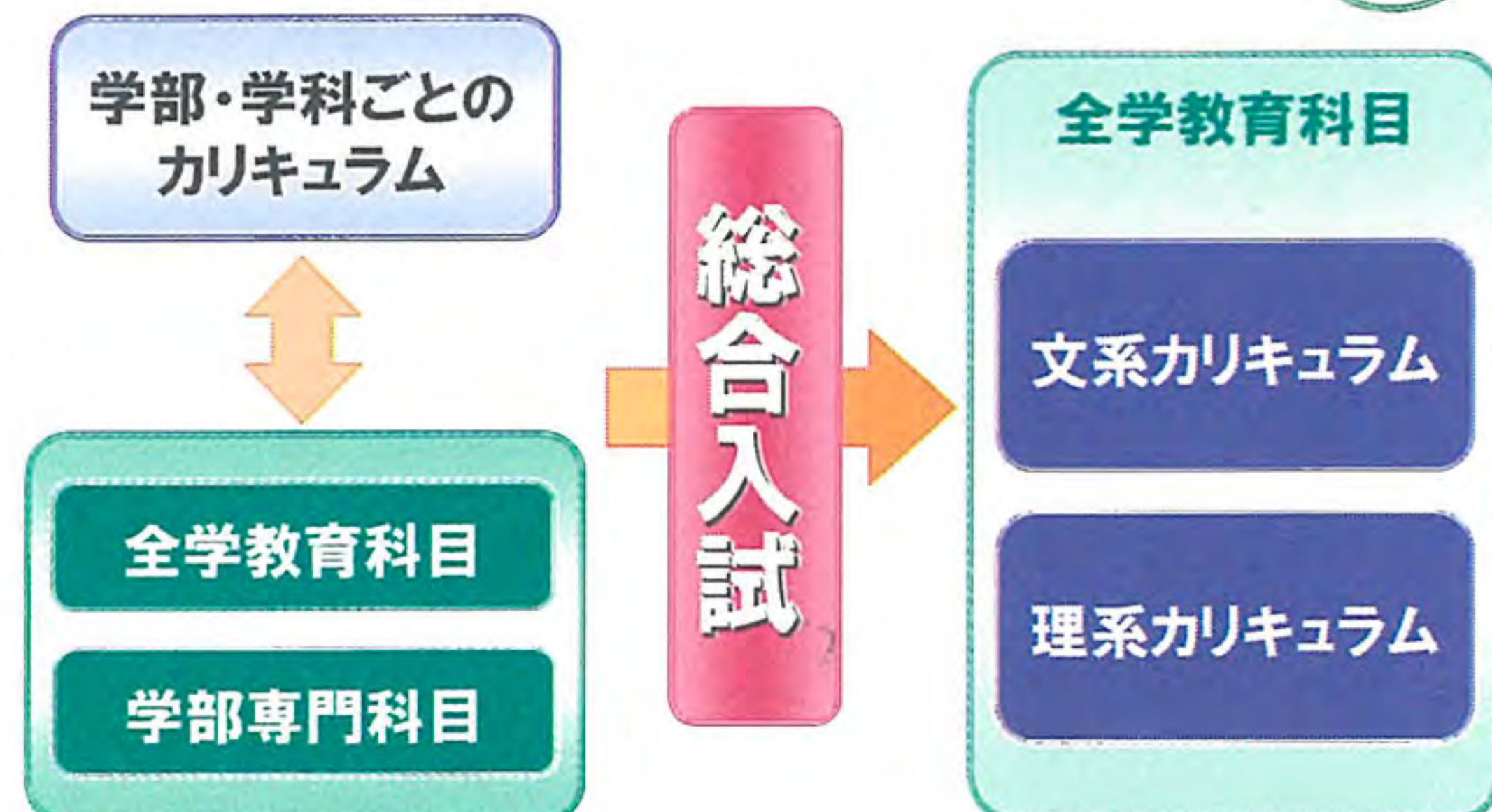
学問分野の細分化・融合化への対応(1)



学問分野の細分化・融合化への対応(2)



初年次教育における共通教育の充実



北大の募集単位の概念図

AO入試	文系学部					理系学部									
	文学部	教育学部	法学部	経済学部	総合入試	理学部	医学部	歯学部	工学部	水産学部					
	37	10	40	20	1027	23	16	5	4	20					
前期日程	学部別入試					総合入試 1027					学部別入試				
	総合入試	文学部	教育学部	法学部	経済学部	選抜群					医学部	歯学部	獣医学部	水産学部	
	100	118	20	140	140	数学重点	物理重点	化学重点	生物重点	総合科学	239	30	20	105	
						130	235	235	177	250					
後期日程	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	保健学部	歯学部	薬学部	工学部	農学部	獣医学部	水産学部			
	37	10	40	20	48	18	8	24	155	53	15	50			

※ AO入試の医学部のうち、医学系、保健学系看護学専攻及び保健学系作業療法学専攻のみ実施します。
※ 後期日程の医学部農学部系のうち、教育技術科学専攻、技術科学専攻及び理学療法学専攻のみ実施します。

総合入試の試験科目と配点

大学入試センター試験科目		本学個別学力検査等			
文系	6教科7科目 (300点)	合計 450点			
	国語 (60点) 地理歴史 (50点) 公民 (30点) 数学 2科目 (60点) 理科 (40点) 外国語 (60点)	国語 (150点) 地理歴史又は数学 (150点) 外国語 (150点)			
理系	5教科7科目 (300点)	合計 450点			
	国語 (80点) 地理歴史又は公民 (40点) 数学 2科目 (60点) 理科 2科目 (60点) 外国語 (60点)	国語 (80点) 数学重点 (200点) 物理重点 (150点) 化学重点 (150点) 生物重点 (150点) 総合科学 (150点)	主要理科 (2科目)100点 (50点, 50点) 物理100点 化学100点 生物100点 (2科目)150点 (75点, 75点)	その他の理科 (50点, 50点) 50点 50点 50点	外国語 (150点) 150点 150点 150点 150点

選抜群とは？

理系の選抜群とは・・・

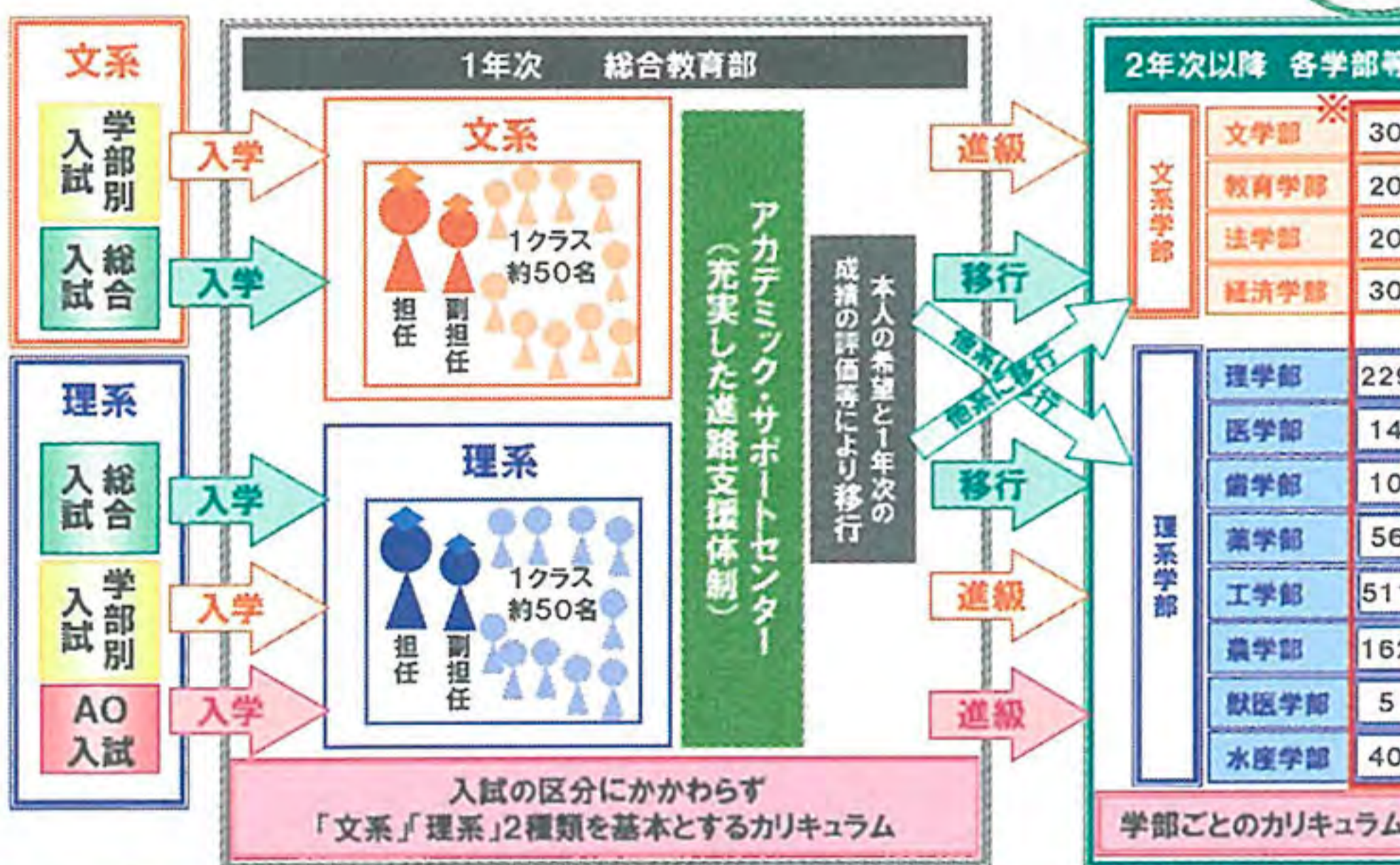
特定の科目に、より高い配点を行うことで得意科目を活かす入試方式

選抜群	教科・科目	数学	主要理科	その他の理科	外国語
数学重点選抜群	数学	200点	(2科目)100点 (50点, 50点)	150点	150点
物理重点選抜群	物理	150点	物理100点	50点	150点
化学重点選抜群	化学	150点	化学100点	50点	150点
生物重点選抜群	生物	150点	生物100点	50点	150点
総合科学選抜群	総合科学	150点	(2科目)150点 (75点, 75点)	150点	150点

選抜群は入試の区分。
選択科目やどの選抜群で受験したかということは
入学後の学部・学科移行には影響しません。



総合教育部について



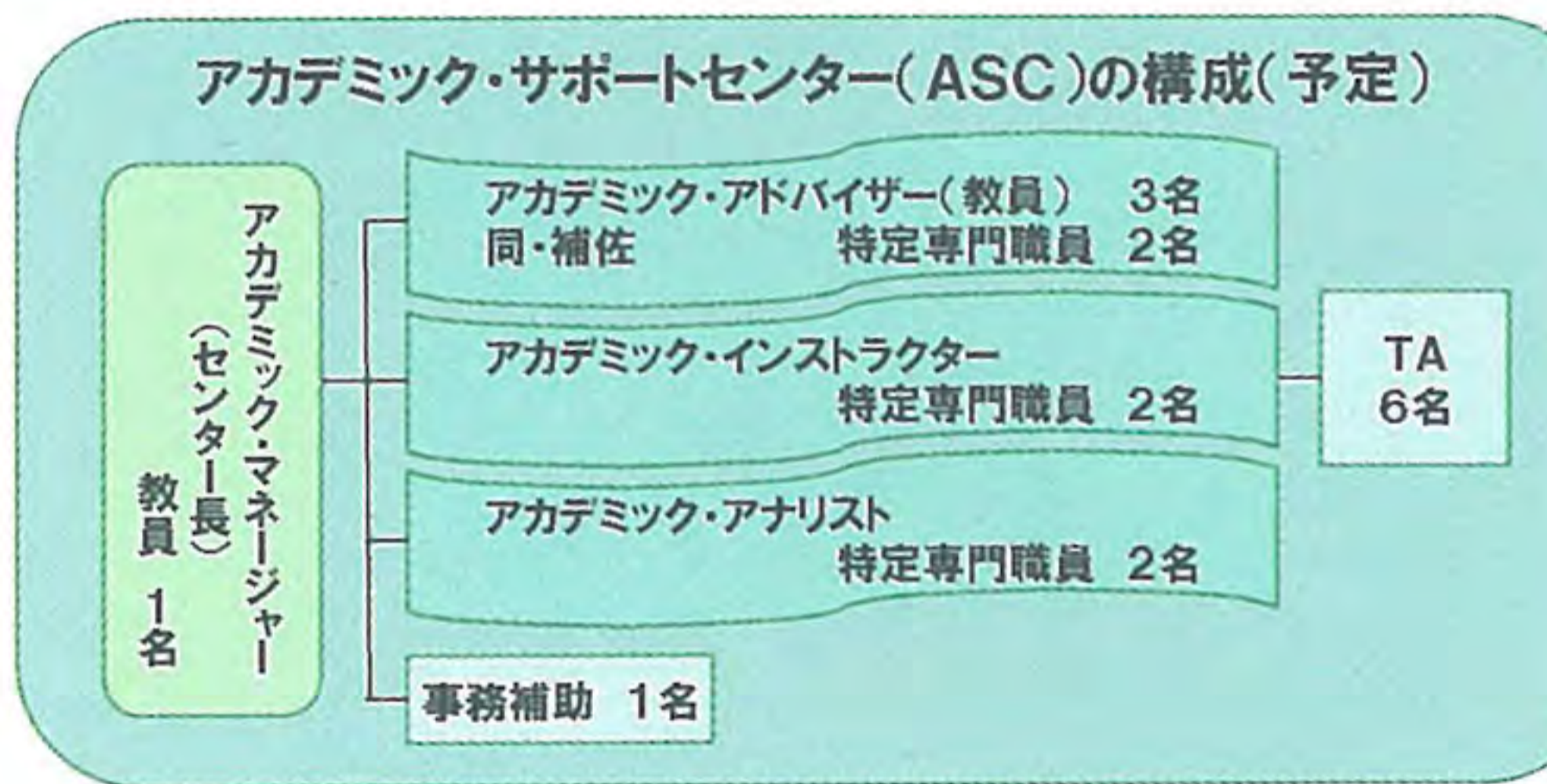
※ 人数は、総合入試入学の移行人数のみ想定して、一部の学部を除き、変動する場合があります。

充実した教養教育・基礎教育

総合教育部に所属する1年次は、全学教育科目を履修

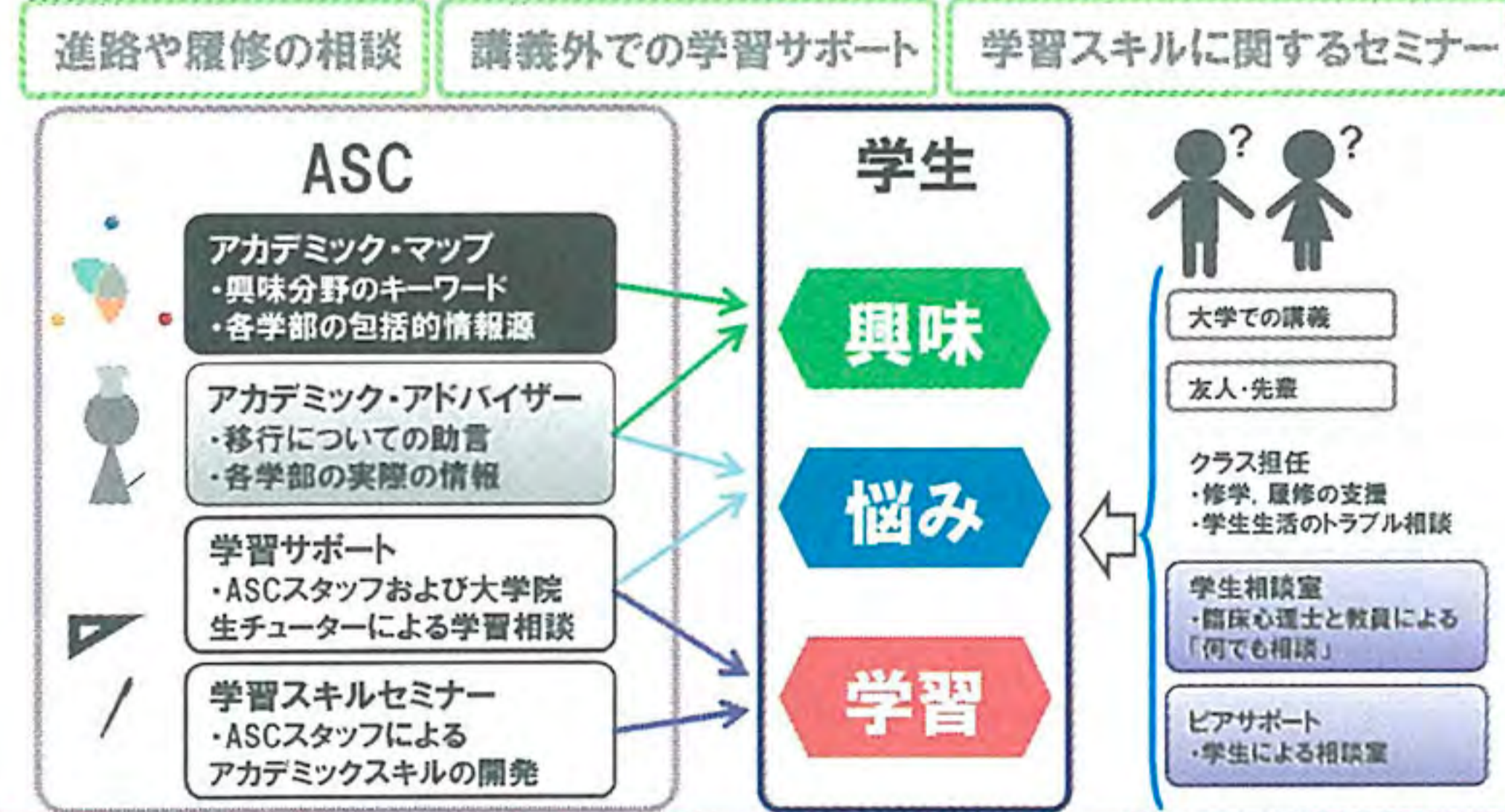
コアカリキュラム		
一般教育演習 (フロンティアセミナー)	少人数のゼミナール式。校務、練習船等を利用した合宿形式の演習も含む。	約140科目
総合科目	複数の学問分野を融合した統合演習。1テーマにつき複数の教員が講義を行うことも。	約60科目
主題別科目	最良の専門家による最良の教養教育。哲学、歴史、芸術、文学、法学、科学、技術等	約170科目
共通科目	体育学、情報学、統計学、インターシップ(キャリアに関連した就業体験)	約30科目
外国語科目	英語を基本とし、初習外国語を履修。演習では第三、第四外国語の履修も可能。	約350科目
基礎科目	専門教育の基礎となる科目。主に理系基礎科目と文系基礎科目。実験も行われる。	約40科目

充実した進路支援体制(1)

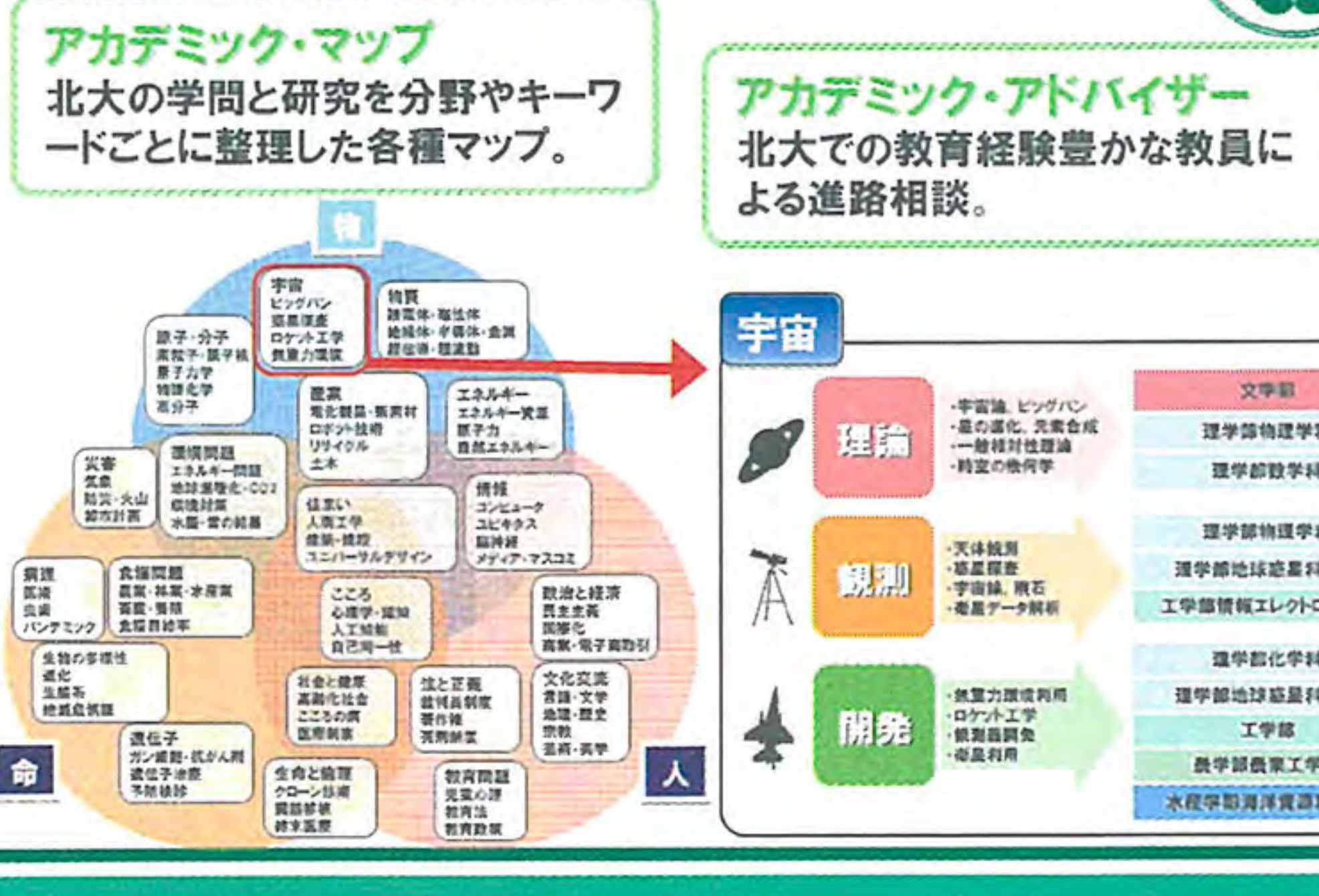


充実した進路支援体制(2)

アカデミック・サポートセンター (ASC)



進路相談の体制



各種学習のサポート

学習サポート

大学院生チューターによる個別学習相談

- ① 外国語 (英語・中国語など) 文章読解の手助け、文法のチェック、各言語による文章の添削
- ② 理系基礎科目 (数学・統計・物理・化学・生物など) 問題の解法や教科書の内容理解の手助け
- ③ 文章添削 一般的なレポート・論文の書き方、日本語の添削 (留学生)
- ④ 情報学 パソコン全般の操作 (MS Word・Excel・PowerPoint), コンピュータリテラシー

学習スキルセミナー

ASCスタッフによる効果的な学習法についてのセミナー

- ① ノートの取り方
- ② シラバス活用法と予習復習
- ③ 情報リテラシー
- ④ 文章の読み方と書き方、など

学部・学科への移行について

移行の方法



移行の大原則

全ての手続きを通じて、学生が希望しない学部・学科等へ移行することはありません。

移行先の決定においては成績上位者が優先され、同位の者は同等に扱います。

総合入試入学者の学部・学科等別定員

学部・系	学科(学科目等)	定員	学部・系	学科(学科目等)	定員
文学部	文学部	30	工学部	応用理工学系	—
	教育学部	20		(応用物理工学コース)	39
	法学部	20		(応用化学コース)	55
	経済学部	35		(応用電子工学コース)	28
	教育学部	30		情報エレクトロニクス学系	—
	物理学系	25		(情報工学コース)	20
	化学系	52		(コンピュータ工学コース)	20
	生物科学系	—		(電子情報コース)	31
	(生物学)	39		(生体情報コース)	26
	(高分子物理学)	35		(メディアネットワークコース)	24
地球惑星科学系	50	(システム情報コース)	21		
医学部	医学部	5	農学部	機械知能工学系	—
	保健学部	3		(機械情報コース)	45
	看護学部	3		(機械システムコース)	45
	(放射線技術科学専攻)	2		環境社会工学系	—
	(検査技術科学専攻)	2		(社会基盤学コース)	30
	(理学療法学専攻)	1		(国土防災学コース)	30
	(作業療法学専攻)	1		(健康都市学コース)	34
	歯学部	10		(歯学部理工学コース)	37
	薬学部	10		(薬学管理システムコース)	35
	獣医学部	21		農学部	生物資源科学系
水産学部	農学部	10	応用生命科学系		23
	農学部	35	生物環境化学系		26
	獣医学部	21	森林科学系		27
	海洋生物科学系	10	畜産科学系		17
	海洋資源科学系	10	農業工学系		29
	環境生命科学系	10	農業経済学系		18
	資源環境化学系	10			

保健学部は学科定員が9名であり、専攻別定員は目安である。

移行点の算出方法

成績	点数
秀	4
優	3
良	2
可	1
不可	0

$$\sum (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \div \text{規定の単位数} = \text{移行点}$$

文系と医学部保健学科は32単位
医学部保健学科を除く理系は36単位

学部・学科等への移行点の算出基準単位表(1)

文系:合計32単位

- 1 一般教育演習(フレッシュマンセミナー)及び総合科目から4単位
- 2 主題別科目から8単位
- 3 共通科目(インターンシップA・Bを除く)及び基礎科目から、「人文・社会科学の基礎」4単位を含む 計 8単位
- 4 外国語科目及び外国語演習からあわせて12単位

理系(医学部を除く):合計36単位

- 1 一般教育演習(フレッシュマンセミナー)及び総合科目から2単位
- 2 主題別科目から4単位
- 3 共通科目(インターンシップA・Bを除く)から4単位
- 4 外国語科目及び外国語演習からあわせて8単位
- 5 基礎科目から自然科学実験2単位を含む18単位

学部・学科等への移行点の算出基準単位表(2)

医学部医学科:合計36単位

- 1 一般教育演習(フレッシュマンセミナー)から2単位
- 2 主題別科目から4単位
- 3 共通科目(インターンシップA・Bを除く)から4単位
- 4 外国語科目及び外国語演習からあわせて8単位
- 5 基礎科目から「基礎物理学Ⅰ又は物理学Ⅰ」「基礎物理学Ⅱ又は物理学Ⅱ」、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ及び自然科学実験2単位を含む18単位

医学部保健学科:合計32単位

- 1 一般教育演習(フレッシュマンセミナー)及び総合科目から2単位
- 2 主題別科目から4単位
- 3 共通科目(インターンシップA・Bを除く)から4単位
- 4 外国語科目及び外国語演習からあわせて8単位
- 5 基礎科目から自然科学実験2単位を含む14単位

移行定員に関する注意事項

文系から理系への移行も可能だが人数制限がある

理系から文系への移行も可能だが人数制限がある

移行人数(総数)は指定単位修得者数により変動することがある

ただし、医学部医学科、歯学部歯学科、薬学部薬学科、獣医学部獣医学科においては移行人数は変動しない

各段階の移行定員数

移行定員数は移行対象者(指定単位数修得者)の人数に応じて各学部・学科等で比例配分する

第1次振り分けでは定員の80%を移行させる(医学部医学科、薬学部薬学科、歯学部歯学科、獣医学部獣医学科を除く)

系を越えた移行は第1次振り分けの時だけ可能とする

第2次振り分けは第1次振り分けで決まらなかった学生を対象とし、残りの定員へ振り分ける

それでも決まらない学生については空き定員のある学部・学科等について成績順に移行の意志を確認し振り分ける(補充振り分け)

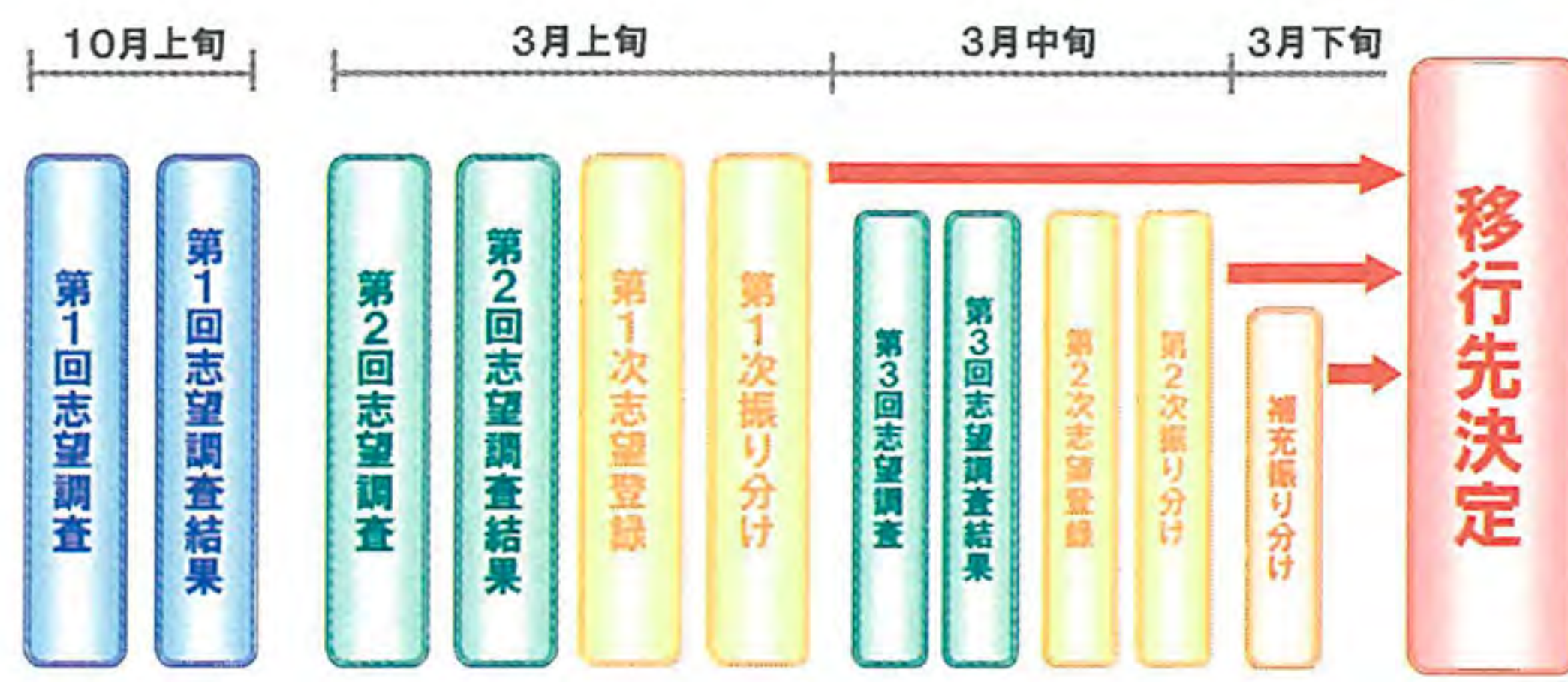
同順位者の扱い

同じ志望先で移行点と同じ者がいた場合、移行点の算出に用いた科目のうち、特定の科目*の中で「秀」の単位数の多い者が上位となる

*文系は文系基礎科目、外国語科目、外国語演習。理系は理系基礎科目。

それでも同順位の場合は上記の科目の中で順次「優」→「良」→「可」の単位数の多い者が上位となる

学部・学科移行の基本的な流れ



25

志望調査の方法

1年次前期成績確定後および1年次後期成績確定後に志望調査を行う

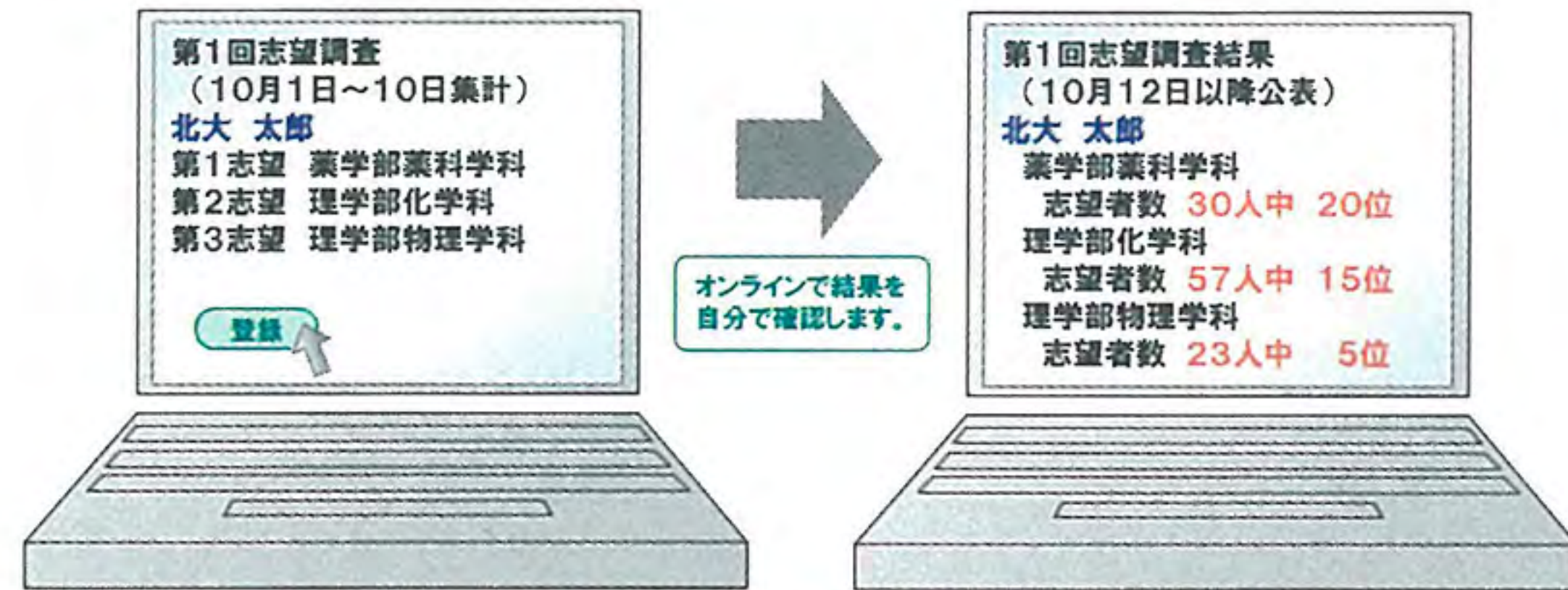
調査はWeb上で行われ、学内外からのアクセスが可能

第3志望まで入力し、志望先の移行点算出方法に従って自分の順位が表示される

26

志望調査

10月上旬(第1回)と3月上旬(第2回)に行われる。それぞれの時点での各学部・学科ごとの志望者数を調査し、その結果を公表。自分の成績順位を確認することができる。



※ 調査期間、公表開始日及び画面レイアウトはあくまでも一例で、現時点では未定です。

27

志望登録の方法

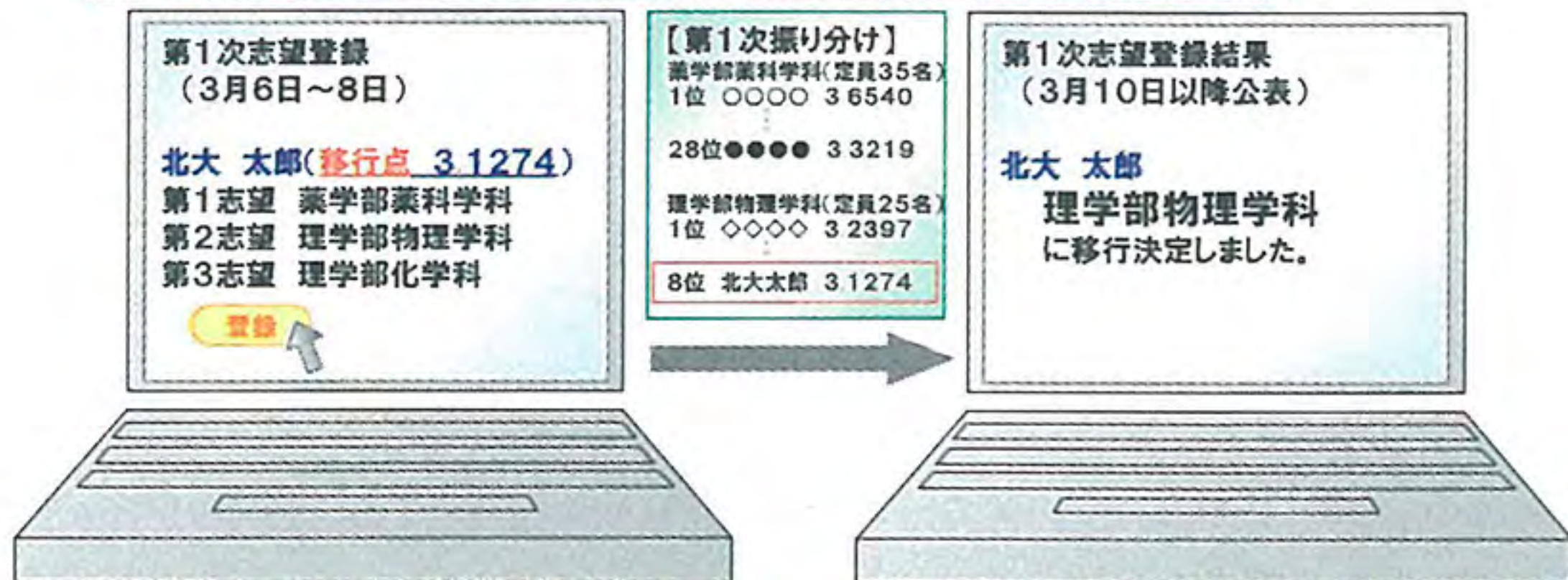
第1次志望登録では第3志望まで登録できる(第1志望のみでも可)

第2次志望登録では、文系は最低でも第3志望まで、理系は最低でも第5志望まで入力しなければならない

28

志望登録

移行先は、1年次に修得した単位の成績評価に基づいて算出される「移行点」が上位の学生から順番に決定。第1志望の移行先が定員に達した場合は、第2志望、第3志望の順に決定。第1次志望登録に基づき、各移行先の定員の約8割が決定。この段階で決定しなかった学生を対象に第3回志望調査、第2次志望登録と続く。



※ 移行点の点数、登録期間、公表開始日及び画面レイアウトはあくまでも一例で、現時点では未定です。

29

移行についてのQ&A(1)

Q1 入試での成績は学部・学科への移行に関係する?

A1 移行する学部・学科の決定には関係しません。



30

移行についてのQ&A(2)

Q2 特定の科目の単位を修得していないと○○学部は選択できないといった制約はある?

A2 制約はありません。

ただし、移行点に基づいて移行先が決定するので、「算出基準単位表」(全学教育科目の各科目から何単位とればよいかの基準を示したもの)に定められた科目は修得しましょう。
なお、学部・学科によっては「学部要修科目」を指定しています。この科目を修得していないからといって当該学部を選択できない訳ではありません。しかし、移行後に必要となる科目として履修が推奨されているものなので、できる限り修得しておくようにしましょう。

31

移行についてのQ&A(3)

Q3 総合入試(文系)で入学した学生が理系学部を希望、または総合入試(理系)で入学した学生が文系学部を希望する場合、留意することは?

A3 ① 移行先に応じた「算出基準単位表」に基づいて移行点が算出されます。関係する「算出基準単位表」を参考に履修プランをしっかりとる必要があります。

② 他系から移行できる人数には制限があります。学部・学科ごとの移行人数のおよそ1割です。

③ 他系を移行先として選択することは、第1次志望登録時のみ。第2次志望登録時には選択できません。

32

大学からの報告②

九州大学21世紀プログラム

九州大学高等教育開発推進センター教授

林 篤裕

九州大学では2001年に「21世紀プログラム」というユニークな教育プログラムを立ち上げ、既に10年が経過した。これは、学部を特定せずに複数の学部教育を横断的に受講することができることを特色としている。今回は、九州大学高等教育開発推進センターの林篤裕先生に、このプログラムの理念や現状、それに入試方法についてご紹介いただいた。

まず、本プログラムの理念としては、以下の4点が挙げられる。詳しくは学生募集要項を参考にさせていただきたいが、教養教育を目指して国際的に活躍できる人材を育成することを目的として開設された。

- ・21世紀を担う人材の育成
- ・専門性の高いゼネラリスト
- ・創造を引き出す知識と基礎的な知識
- ・「外」に開かれた知識

一般の大学生は、大学出願時に専攻を決定する必要があるが、本プログラムでは、入学後3年間は11ある学部の興味ある講義を受講し自分の真に専攻したいテーマを決定していく。残りの1年で卒論指導を受けることになるが、所属する学部は全学を網羅している。また、一般の学生より専攻決定時期が遅くなっている分、大学院への進学が推奨されている。加えて、海外への語学研修や留学も推奨されており、実績として約半数の学生が何らかの形で海外での生活を経験している。

これを選抜する入試方法も独特で、書類選考（第1次選抜）を通過した受験生には2日間にわたる第2次選抜試験として、講義・レポート（3つ）、討論、面接、小論文が課せられている。それぞれで3名の教員による4段階評価に基づいて「マトリックス方式」と呼ばれる方法で、合格者を決定している。九州エリアからの進学者が多い九州大学にとって、本プログラムは比較的全国から受験生・入学者を集めている。

講演の後、質疑応答が行われ、以下のような質問と意見交換があった。

- ・21世紀プログラムの学生と、一般の学生の帰属意識の違い
- ・卒業生の進路と、文系大学院への進学率
- ・全国的な広報活動と、AO入試の課題





KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の世紀を拓く

AC連絡会議
06/07/10 @北九州国際会議場

九州大学 21世紀プログラム

専門性の高いゼネラリストを養成する
学部横断型教育プログラム

林 篤裕

(九州大学 高等教育開発推進センター
& アドミッションセンター)

(21世紀プログラム基幹教員)

e-mail: hayashi@rche.kyushu-u.ac.jp



1

九州大学 概要

総長1・理事8・監事2 計11名

学部 11 (+1)
大学院学府 18

附置研究所等 4
附属図書館 1 (分館5)
(蔵書約400万冊)
病院 1 (約1,400床)
全国共同利用施設 1
学内共同教育研究施設 32
機構 4

2009年5月1日現在

学部学生 11,713名
(女子 3,468名)
大学院生 6,843名
(女子 1,775名)

外国人留学生
1,509名 (81ヶ国・地域)
学生の海外留学 2009年度
154名 (23ヶ国・地域)

教員 2,186名
教授 719名
准教授・講師 748名
助教他 719名
事務・技術職員
2,600名

学部卒業
約12.7万人
修士修了
約4.1万人
博士学位
約2.4万人

土地 約75km²
福岡、長崎、熊本、
大分、宮崎、鹿児島、
北海道



知の世紀を拓く 2

2011年度(平成23年度) 入学者選抜 (予定)

一般入試
センター試験+個別学力検査

前期日程

全11学部 2,023人

79.1%

後期日程

教育、医・保健、薬、芸工を除く
8学部 336人

13.2%

入学定員
2,556人

11学部
+
21世紀
プログラム

帰国子女
私費外国人留学生
社会人

AO入試

AO入試 I

[センター試験を課さない]

教育、薬、
21世紀プログラム
48人

7.7%

AO入試 II

[センター試験を課す]

理(全学科)、医・保健、
歯、芸工(全学科)、農
149人

3

九州大学AO入試 2011年度AO入試 (予定)

文学部	
教育学部	★ 10
法学部	2009年で終了
経済学部	
理学部	物理 10 化学 15 地球惑星 8 数学 8 生物 5
医学部	医学 生命科学
歯学部	看護 9 保健 放射線 6 検査 6

歯学部	8
薬学部	★ 創薬科学 6 臨床薬学 6
工学部	環境設計 8 工業設計 15 芸術工学部 画像設計 18 音響設計 5 芸術情報設計 8
農学部	20

21世紀プログラム

★

26

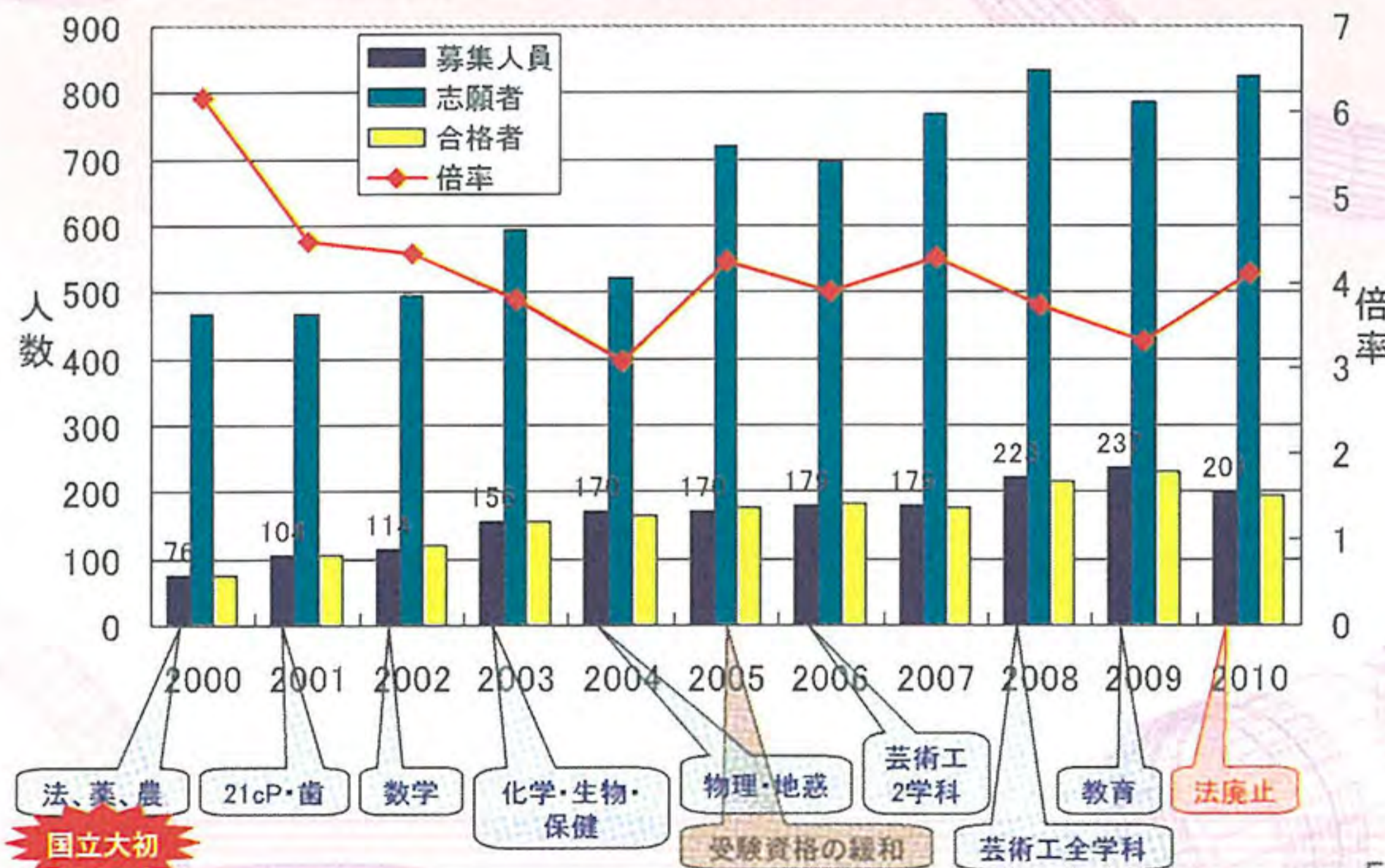
7+1学部 19募集区分
総募集人員 197名

定員の
7.7%

★:センター試験を課さない

4

九州大学AO入試 志願者数の推移



5

The 21st Century Program 理念

専門性の高いゼネラリスト

創造を引き出す知識と 21世紀 プログラム 「外」に開かれた知識
基礎的な知識

学部横断的な教育プログラム

6

求める学生像 (募集要項から)

- ◆ 自ら今日的な諸問題を発見し、これらを解決するための課題を設定し、その深い解明をめざして学習しようとする自主性があること。
- ◆ 文系・理系にこだわることなく、広い分野の学習を進めながら関心の幅を広げ、総合的な探求の能力を高めることによって、自らの能力を最大限に発揮して行こうとする意欲があること。消極的な意味で自らの専門を決めることができないのではなく、あれもこれも学びたいという積極的な意欲があること。
- ◆ 学問を深く学ぶために、必要な基礎的な能力を身につける努力をいとわず、積極的に学習を進めることができる意欲や能力があること。
- ◆ 現代の政治や社会、歴史や文化、自然などに関する基本的な知識など一定以上の「教養」を身につけていること。特に戦後から現在までの現代の国内・国外の問題について関心があること。
- ◆ 海外留学ができるための相当の語学力を身につけることに意欲があること。

7

21世紀プログラム:教育の枠組み

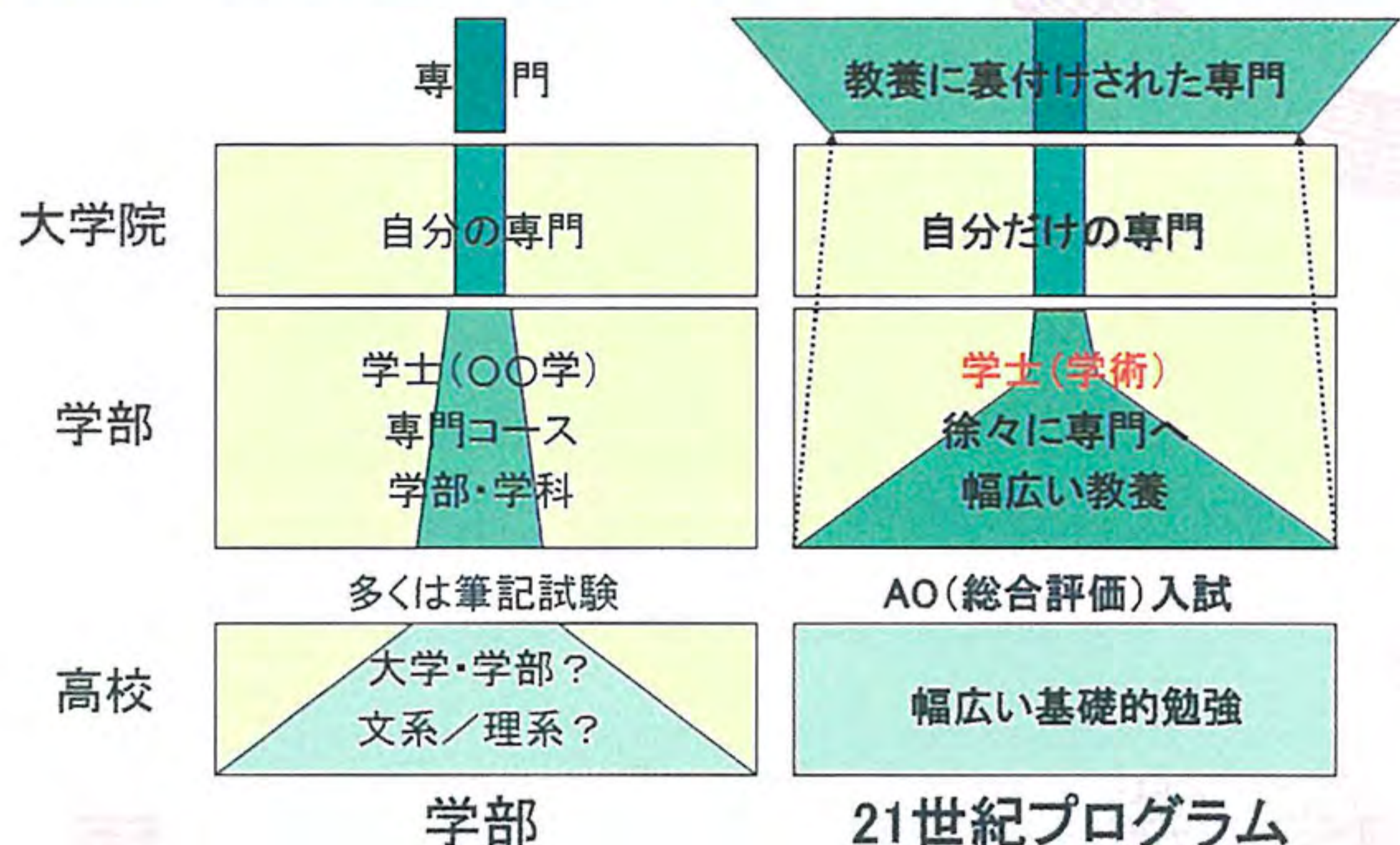
2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



幅広い教養、表現力、国際性を身につけ、チューターの指導を受けつつ、
いろいろな学部の専門を組み合わせ「自分だけの専門」を創る。

8

専門を決める



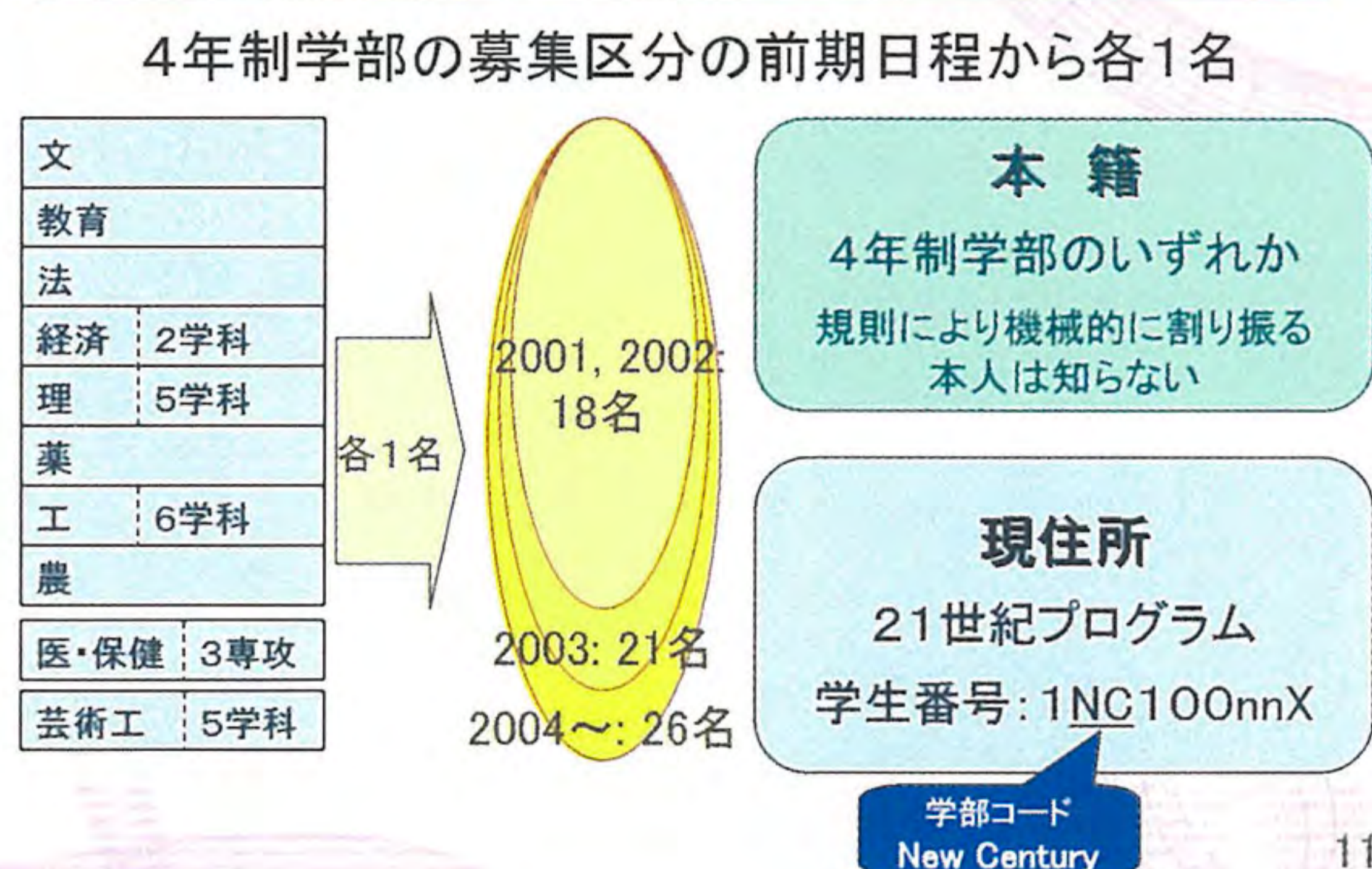
9

課程現況

入学年度	募集人員	合格者	入学者	転課程	退学	卒業者	交換留学	
1期 2001	18	20 (5)	20 (5)	1 (0)		21 (5)	9	
2期 2002		22 (6)	22 (6)	2 (1)	1 (1)	23 (5)	4	
3期 2003		21	19 (5)	19 (5)	1 (1)	1 (0)	19 (6)	6
4期 2004			25 (5)	25 (5)		3 (1)	22 (4)	2
5期 2005			30 (12)	30 (12)	1 (1)	1 (1)	29 (11)	12
6期 2006			27 (7)	26 (7)	2 (1)		24 (7)	5
7期 2007	26	27 (9)	26 (8)	1 (1)			10	
8期 2008		27 (10)	27 (10)	2 (1)			3	
9期 2009		28 (7)	27 (7)	1 (0)			4	
10期 2010		27 (6)	27 (6)					
総計		252 (72)	249 (71)	11 (6)	6 (3)	138 (38)	55	
在学学生数	116							

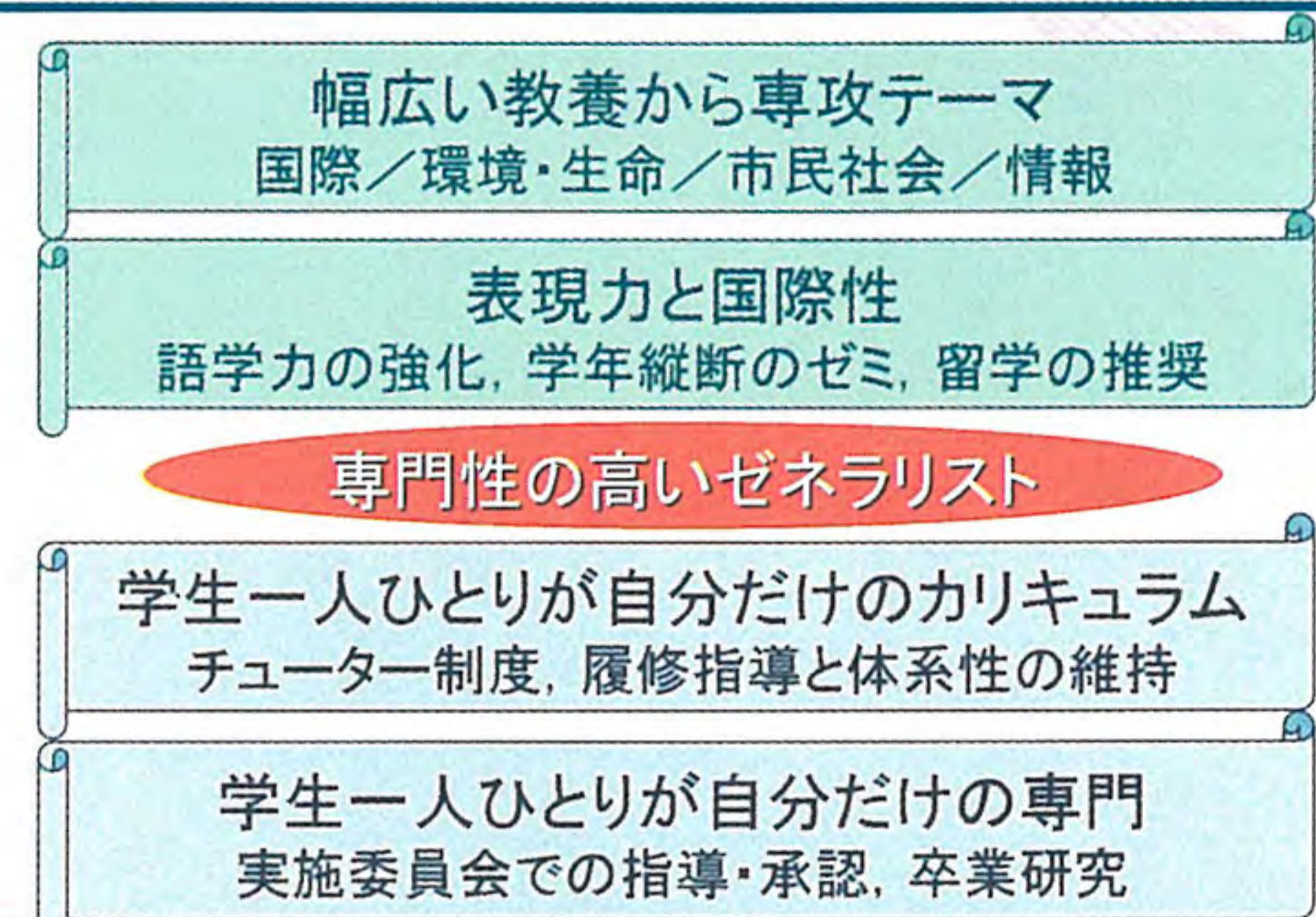
()は男子で内数 2010/4/1現在 10

定員(募集人員)と学籍



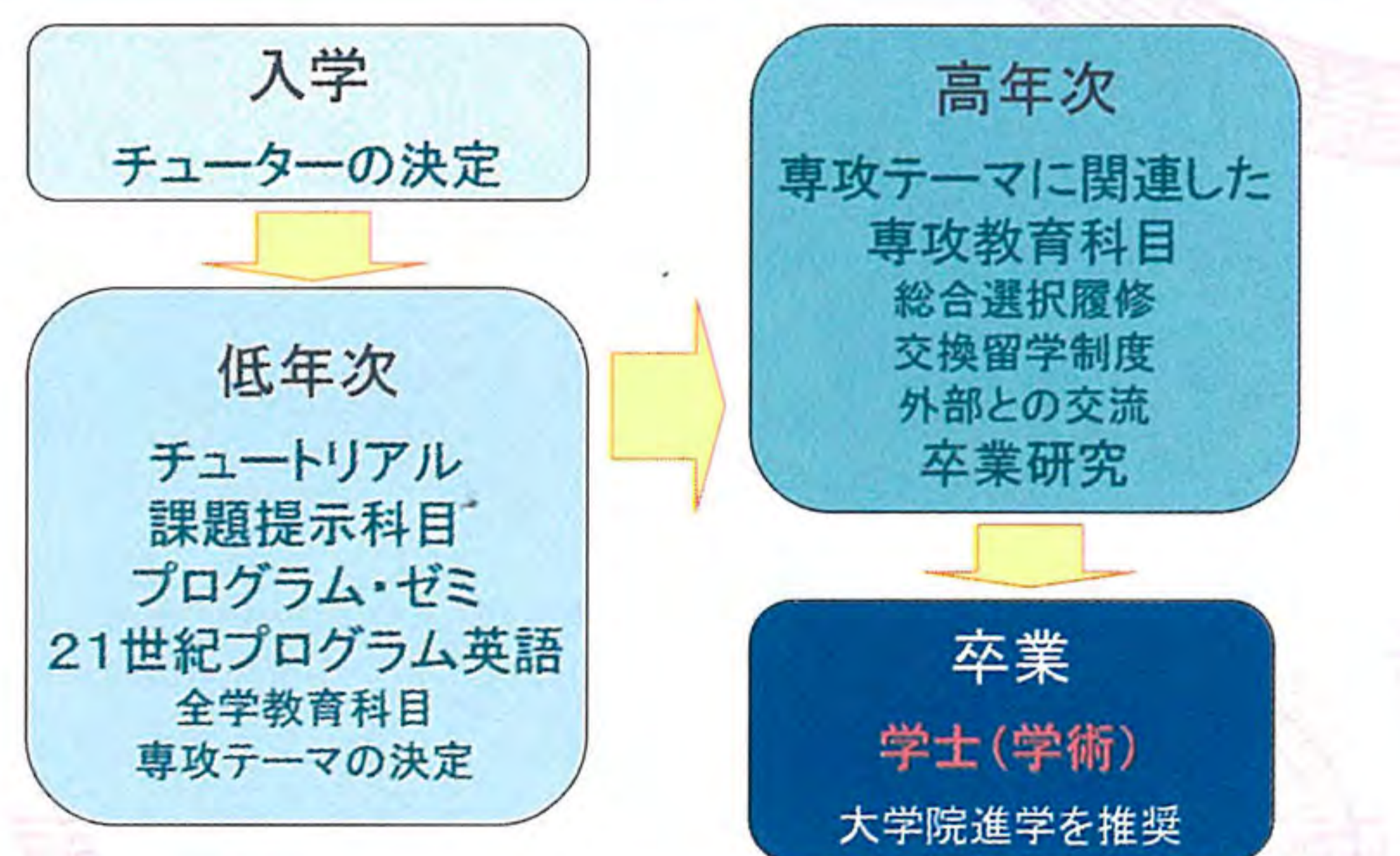
11

教育の柱



12

教育課程



13

課題提示科目

毎年度前後期各2つのテーマと世話教員を決めて実施 1年次全て必修

年度	テーマ	年度	テーマ	年度	テーマ
01	国際	04	地域と文化	07	21世紀の医療倫理
	環境・生命		夢の光「シンクロトン光」		こころとからだ
	市民社会		様々な世界観		現代の廃棄物問題
02	情報	05	新しい知識観	08	エネルギー問題への挑戦
	教育		社会問題のなかで倫理を考える		世界の中の日本
	科学研究のあり方		地球の環境・宇宙の環境		自己癒しの探求—様々なセラピーの在り方と体験
03	グローバリゼーション	06	歴史としての現代技術	09	近未来を支える科学教育の意義と任務
	人間の精神		文化財を守る		温室効果ガス排出削減問題
	地球自然環境		私たちにとってのもう一つの現代		医療倫理学
04	予防原則	08	人類 vs 感染症	09	日本の多様なアイデンティティ
	ローカルとグローバル		大学における「教養教育」とはなにか		異界コミュニケーション
	批判的な態度		21世紀社会のグランドデザイン		被爆地長崎で平和を考える

14

時間割例1

3期生 男子 1年後期

	月	火	水	木	金	土
1		物理学 基礎実験	文芸と人間	英語表現法 B	総合英語演習	チュートリアルII
2	中国語II	物理学 基礎実験	課題提示科目IV		プログラム・ゼミII	
3		英文作成演習A		中国語II	倫理学	
4	課題提示科目III	物質の世界	ノマド論	健康スポーツ科学講義	情報処理基礎演習	
5			全て伊都キャンパスで受講			

21世紀プログラム独自科目 全学教育科目 伊都キャンパス

15

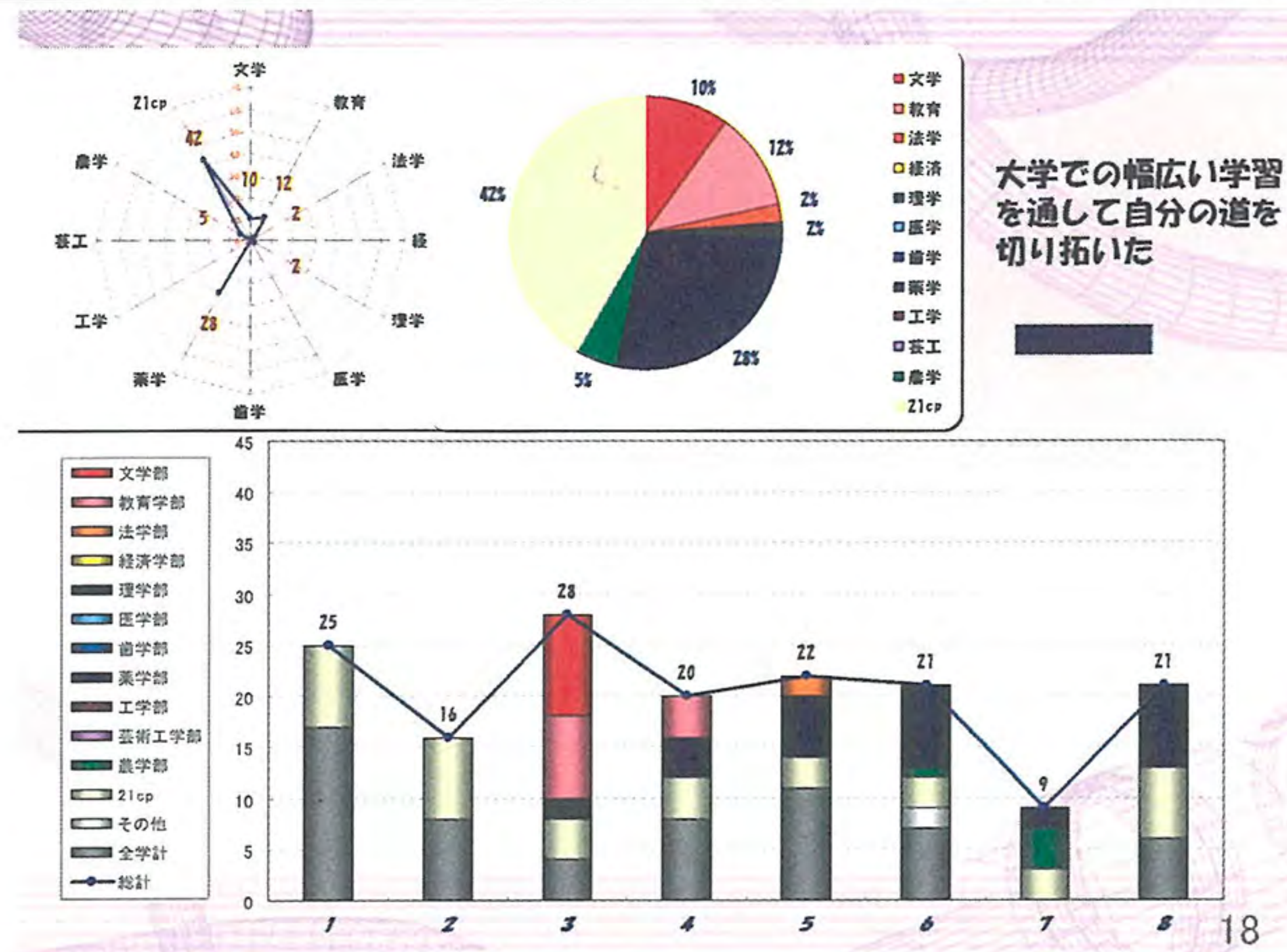
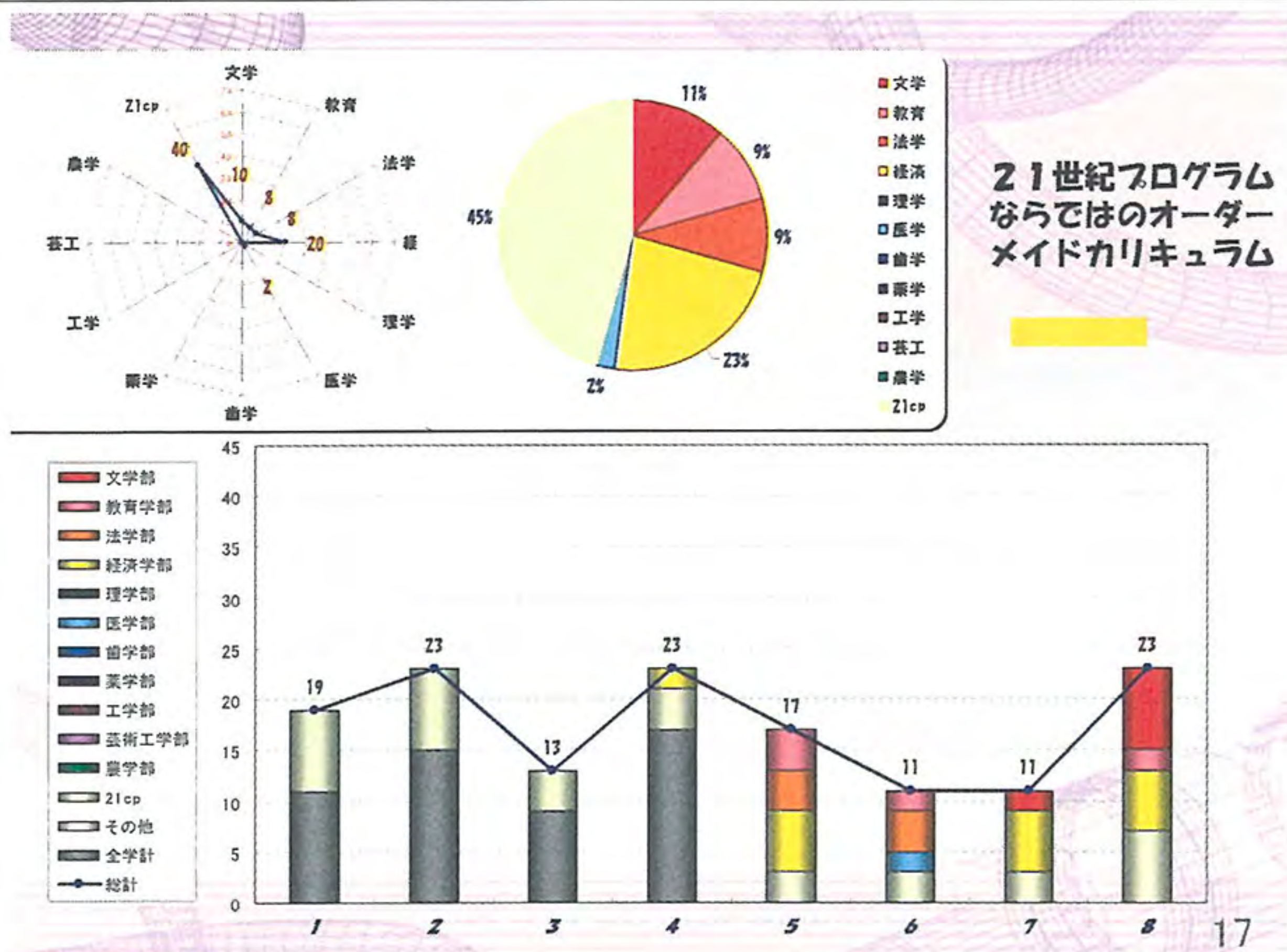
時間割例2

2期生 女子 2年後期

	月	火	水	木	金	土
1	国際経済学(経)	森林防災学(農)	地域政策(経)			
2	生態学(農)	社会調査法講義(文)	地域農業計画論(農)	地理学実習Ⅷ(文)	プログラム・ゼミIV	チュートリアルIV
3		生産流通科学概論(農)	英文作成演習B	伊都と箱崎キャンパス間の移動には1時間必要		
4		基礎地質学(理)	英語発想法B	基礎気象水文学(農)		
5					英語特別演習	

独自科目 全学教育科目 文系専攻教育科目 理系専攻教育科目 伊都キャンパス 箱崎,大橋または病院キャンパス

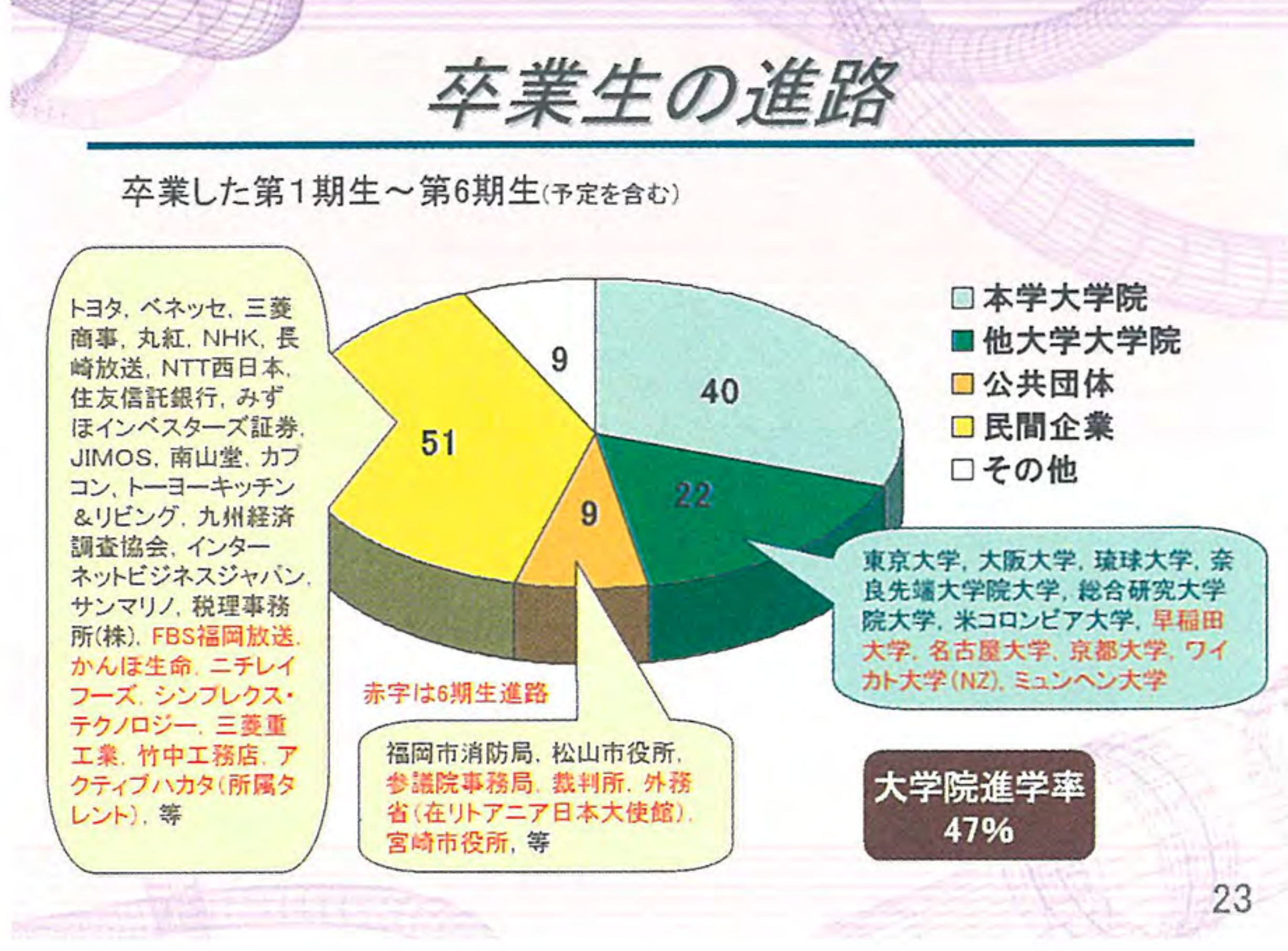
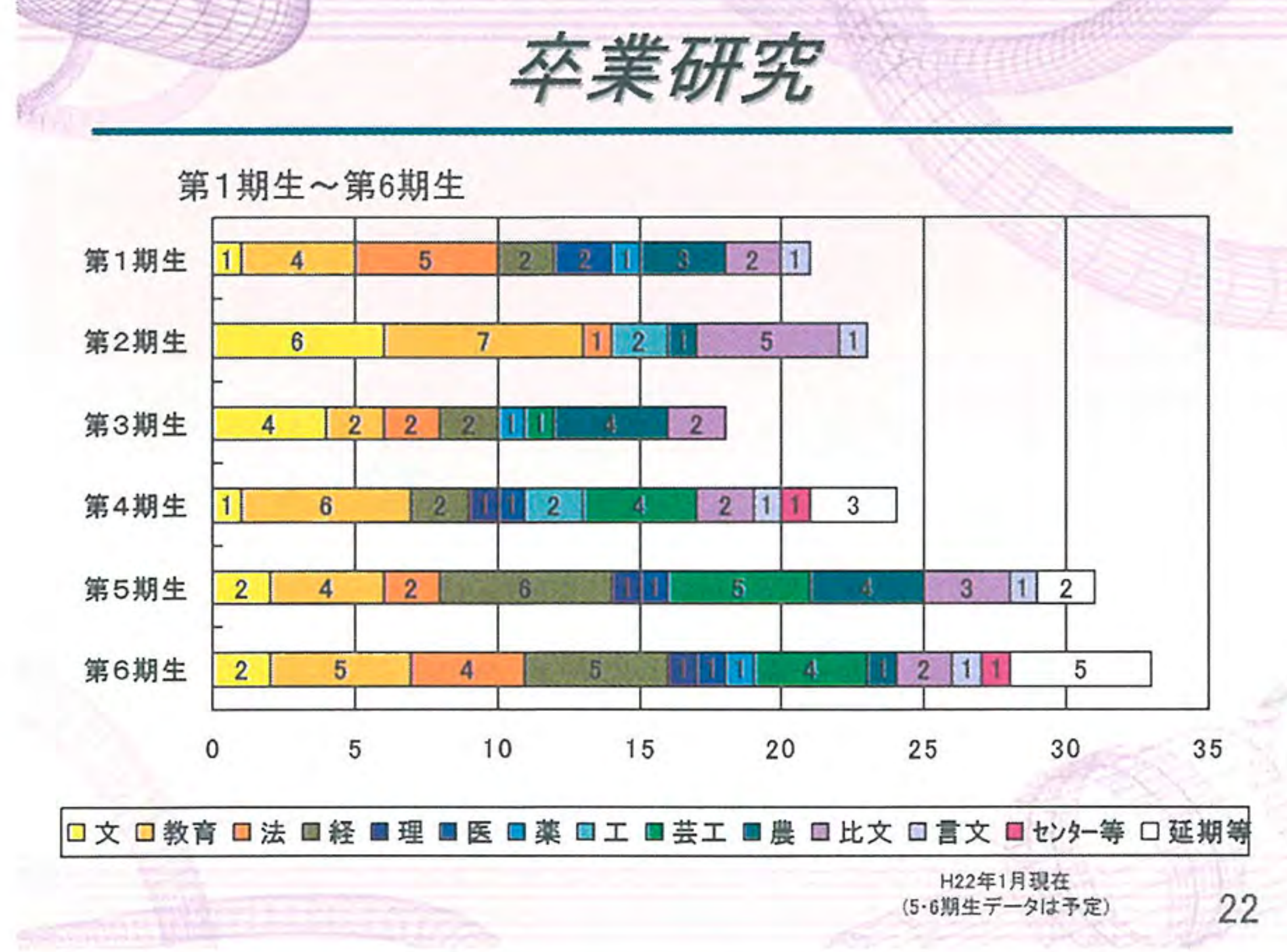
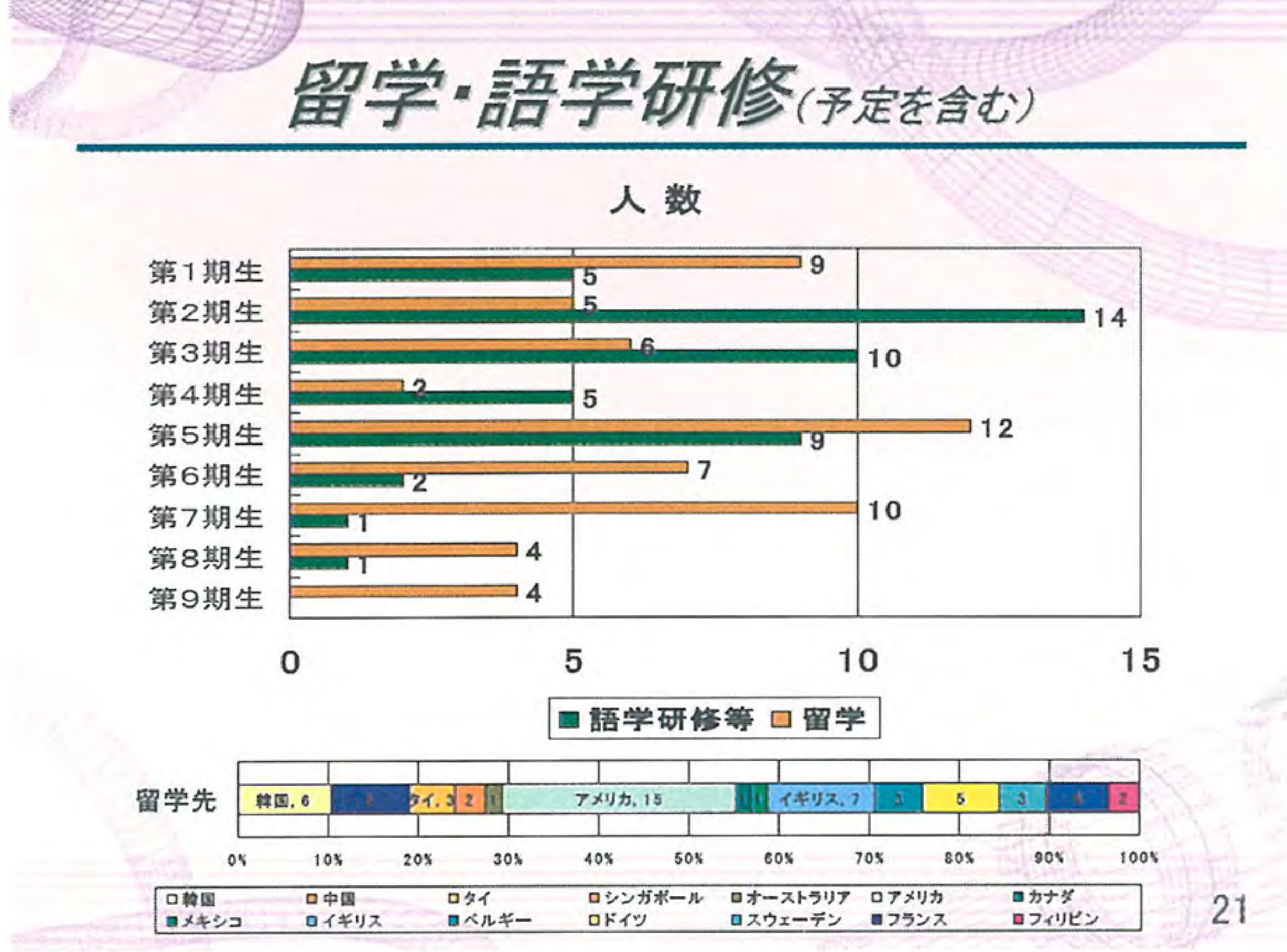
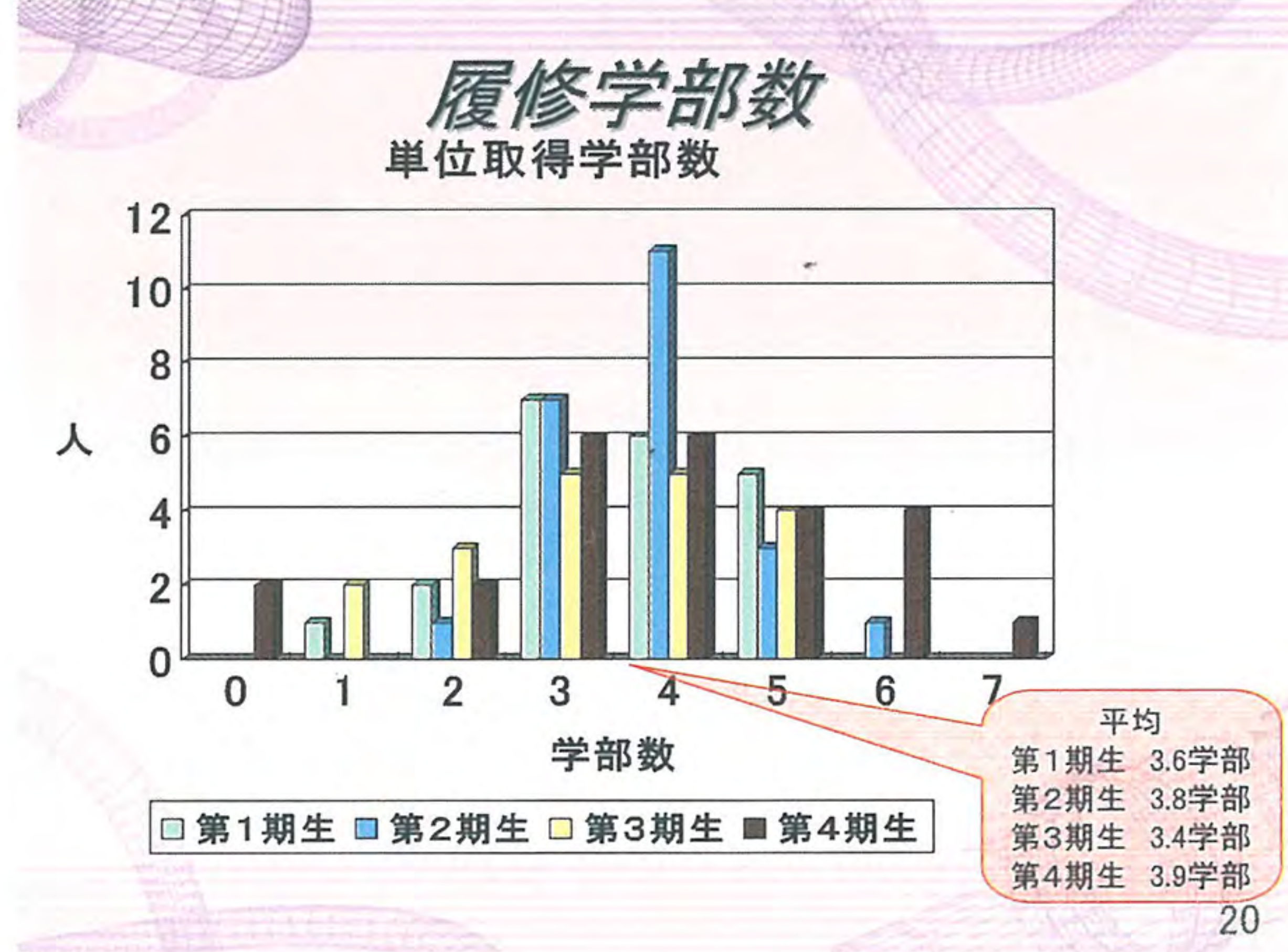
16



第1期生の履修履歴

学生	文	教	法	経	比	理	医	薬	工	芸	農	学部計	文系	理系
専門型 a	11	44	4									3	59	100
専門型 b	38	14	2									3	54	100
専門型 c	8	10	74	8								4	96	100
専門型 d	7	2	50	2								4	61	100
専門型 e	2					2						63	3	97
専門型 f												49	1	49
複合型 g	18		16									2	34	100
複合型 h	12	22	4									3	38	100
複合型 i	10	20	4	2								4	36	100
複合型 j	4	4	6	26					2		2	5	42	95
複合型 k	23	12		2					2			4	39	95
複合型 l	4	2	22	2					2			5	32	94
複合型 m	28	2		10					6			2	5	48
複合型 n	10		4	6		10						4	5	34
複合型 o	12		4	6								38	4	60
複合型 p	10			2								4	40	30
ゼネラリスト型 q	8	10	8	14								4	40	100
ゼネラリスト型 r	14		10	8					2	2		5	36	89
ゼネラリスト型 s	4		10	20								8	4	42
ゼネラリスト型 t	4	8				8		3				21	5	44
ゼネラリスト型 u	8	14	2			8		25				5	59	44

注: 留学、履修申請、卒業研究の状況も示されています。



第1次選抜

- ◆ 出願時提出資料
 - ◆ 志望理由書(2面)
 - 志望する理由、自己の適性や抱負
 - ◆ 調査書等(内申書):
 - ◆ 活動歴報告書(2面): 中学からの活動を記載可
 - 各種活動、表彰、資格等
- ◆ 第1次選抜: 書類審査
 - ◆ 「AP」や「求める学生像」との合致度合を評価
 - ◆ A~Dの4段階(活動歴報告書は3段階)
 - ◆ 4名で評価
 - ◆ 順位の高いものから3倍程度に絞る
(2010年度入試の例では80名。3.1倍)

25

第2次選抜

- 第1日目(土曜日)
- 9:30-11:30 講義1・レポート1 (120分)
 - 12:30-14:30 講義2・レポート2 (120分)
 - 15:00-17:00 講義3・レポート3 (120分)
- 第2日目(日曜日)
- 9:00-11:30 グループ討論 (150分)
 - 12:30-17:00 小論文 (270分)、個人面接
- 軸が違う3テーマ
講義: 約50分
レポート: 約70分
講義や資料に英語を含むことがある
- 論題は当日朝に提示(“予習”を避けるため)
- 3つの講義から2つを選んで討論
15分/人
- 3つの講義のいずれかに関連するテーマを設定して作成
- 随時別室で休憩可

26

講義

01	「きたない」ってどういうことだろう? ・転換期の日本の原子力発電政策 ・経験や直感による判断と論理による判断	06	・国民国家はこれからも必要だろうか? ・歴史を書き換える: ソ連史の場合 ・左と右の化学から考える環境問題
02	・歴史の見方-島原の乱 ・「行為」とは何か? ・振り子の糸の長さを変化させて ・周期を測定する実験	07	・何に権利を付与するのか ・生命(いのち)は誰のものか ・個体差を科学する
03	・現代社会における責任倫理 ・(異文化)としての過去 ・福利厚生・体育施設による ・キャンパスライフの創造	08	・大学の社会的機能の変化 ・住民の視点から: From the native's point of view ・薬と遺伝子
04	・地図を通して見た「世界」 ・科学研究活動を考える: 特に「観察する」とはどういうことか ・生体変数(脈拍数)の変動性を科学する	09	・イェズ会士が見た16世紀の日本 ・原子力損害賠償法は見直すべきか ・作物増収の戦略における植物の機能
05	・考古学とはどのような学問か ・『イギリス人』とは誰か? ・Symmetry in Fantasy	10	・読むことの意義 ・いまどきの権力を考える ・南極の地球科学と地球環境変動



◆ 大学の講義を聴いただけでも、受けた甲斐があった...
◆ 何の話があるのか興味津々だった...

27

評価体制

1次	書類審査	2次	講義1	講義2	講義3
委員	●●●●	A委員	●●●●	●●●●	●●●●
志望理由書	全志願者	レポート	●: 主担当		
調査書等	(90名)	小論文	全受験生(80名)		
活動歴			選択した受験生(~40名)		

他に監督等 3~5名

2次	あ	い	う	え	お
B委員	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
討論	●: 文系、●: 理系、●: カウンセラー / 3名中1名女性				
面接	1グループ受験生16名				

評価は、A~Dの4段階評価(活動歴は3段階評価)。

28

第2次選抜 グループ分け(討論、面接)

第1次成績

グループ				
あ	い	う	え	お
1 → 2	3	4	5	6
10	9	8	7 ← 6	
↓	11 → 12	13	14	15
20	19	18	17 ← 16	
↓	21 → 22	23	24	25
30 ← 29	28	27	26	

- ◆ 第1次成績を均等化
右表をベースにし、さらに
- ◆ 男女比が均等
- ◆ 現浪比が均等
- ◆ 地域性が均等
- ◆ 同一高校別グループ
になるように組換え

29

多次元マトリックス方式

第1次選抜の順位付け 3次元の例

1次: 書類審査
4名の委員が各々
全受験生を評価

① 志望理由書
② 調査書等
③ 活動歴報告書
を3次元で評価

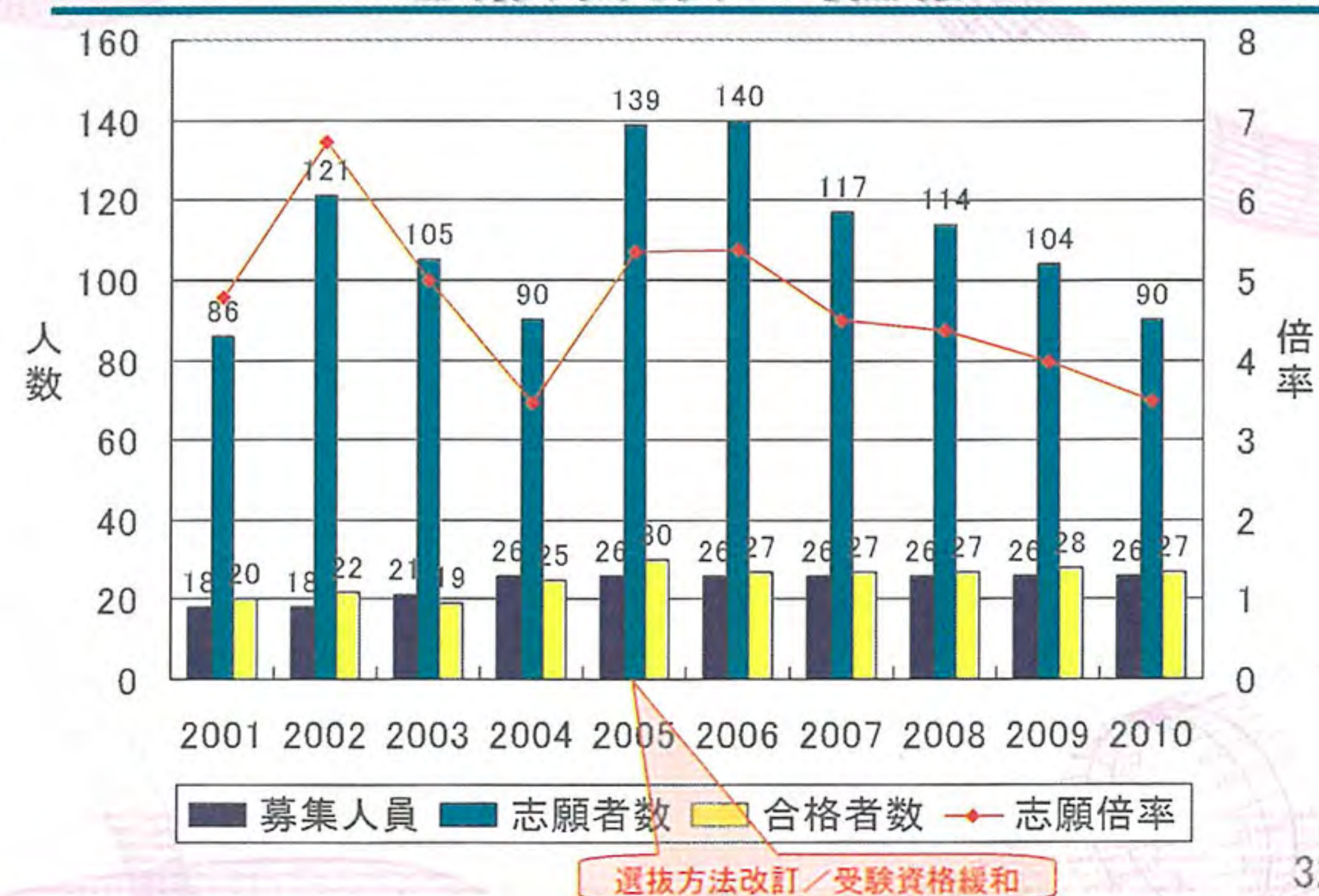
30

評価方法

- ◆ 評価: A~D (活動歴報告書はA~C)
- ◆ 評価順位: 1位~48位: 直方体のセル
- ◆ 評価(順位)点: 1位~受験者数
 - ◆ 同一順位の人数を加味した順位(中央値)
- ◆ 合計評価点: 評価者ごとの順位の総和
 - ◆ 値が小さい方が高順位
- ◆ 査定
 - ◆ 第1次選抜、第2次選抜に関係した35名程度で行う
 - ◆ 討論、面接時の対応
 - ◆ D評価を付けた理由について
 - ◆

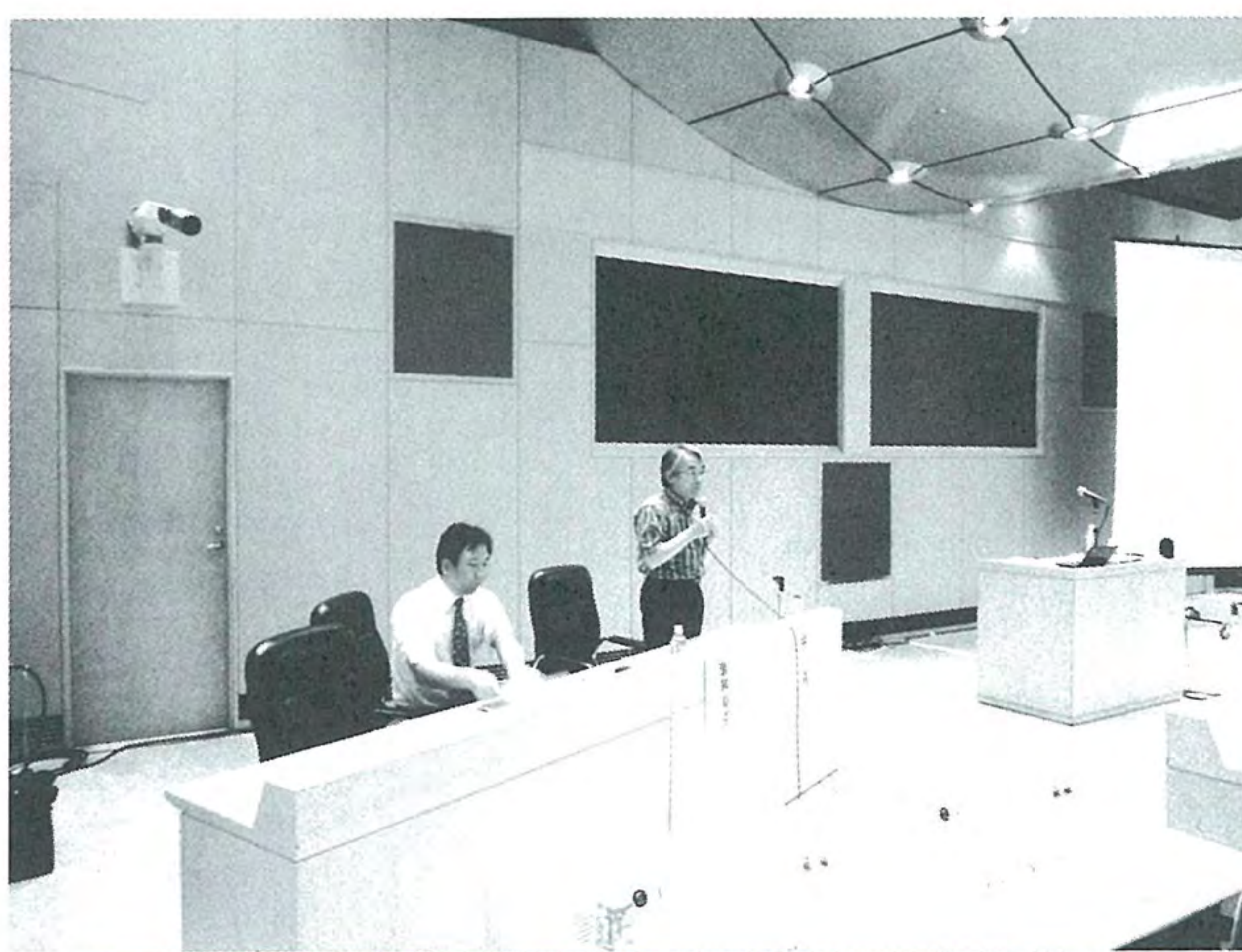
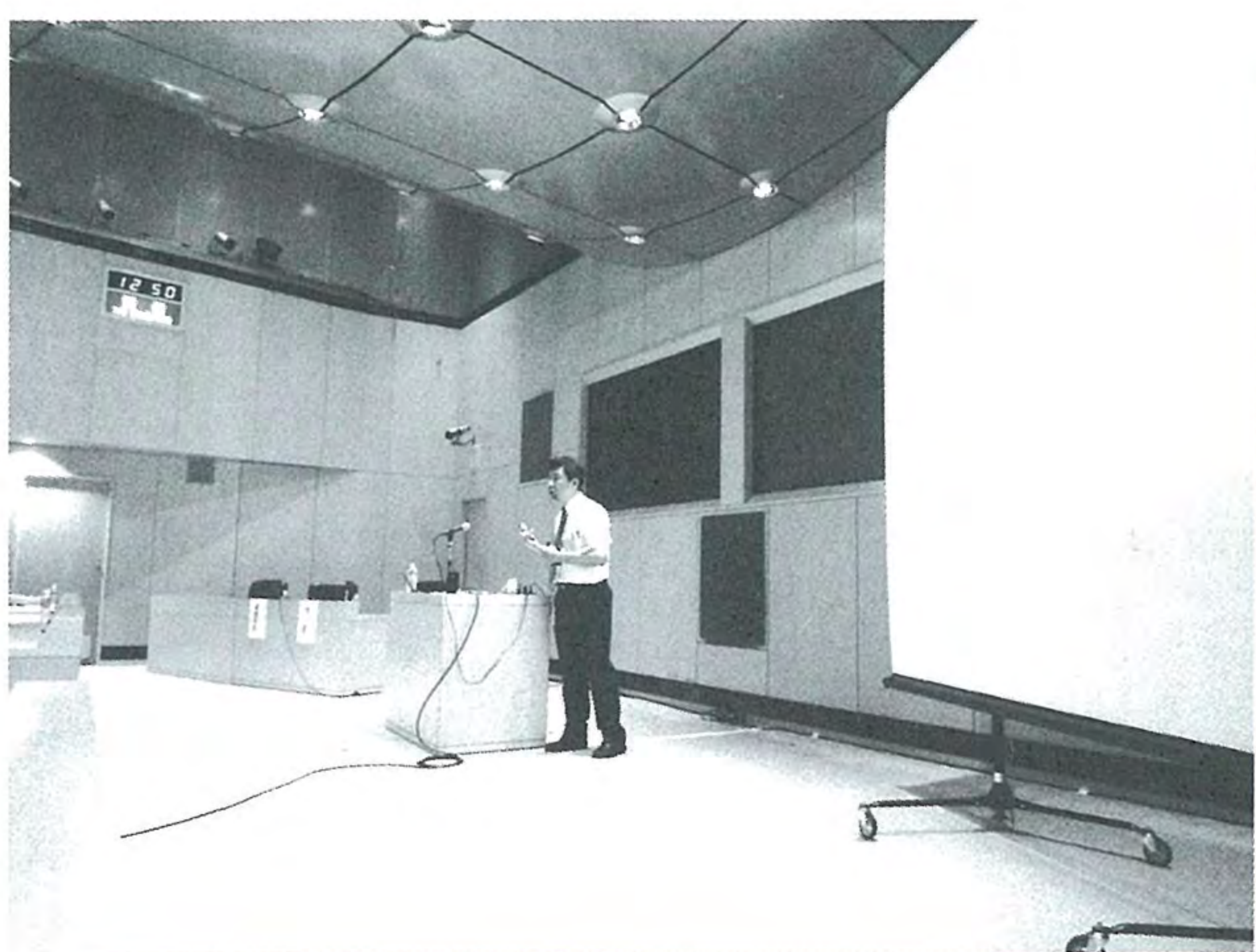
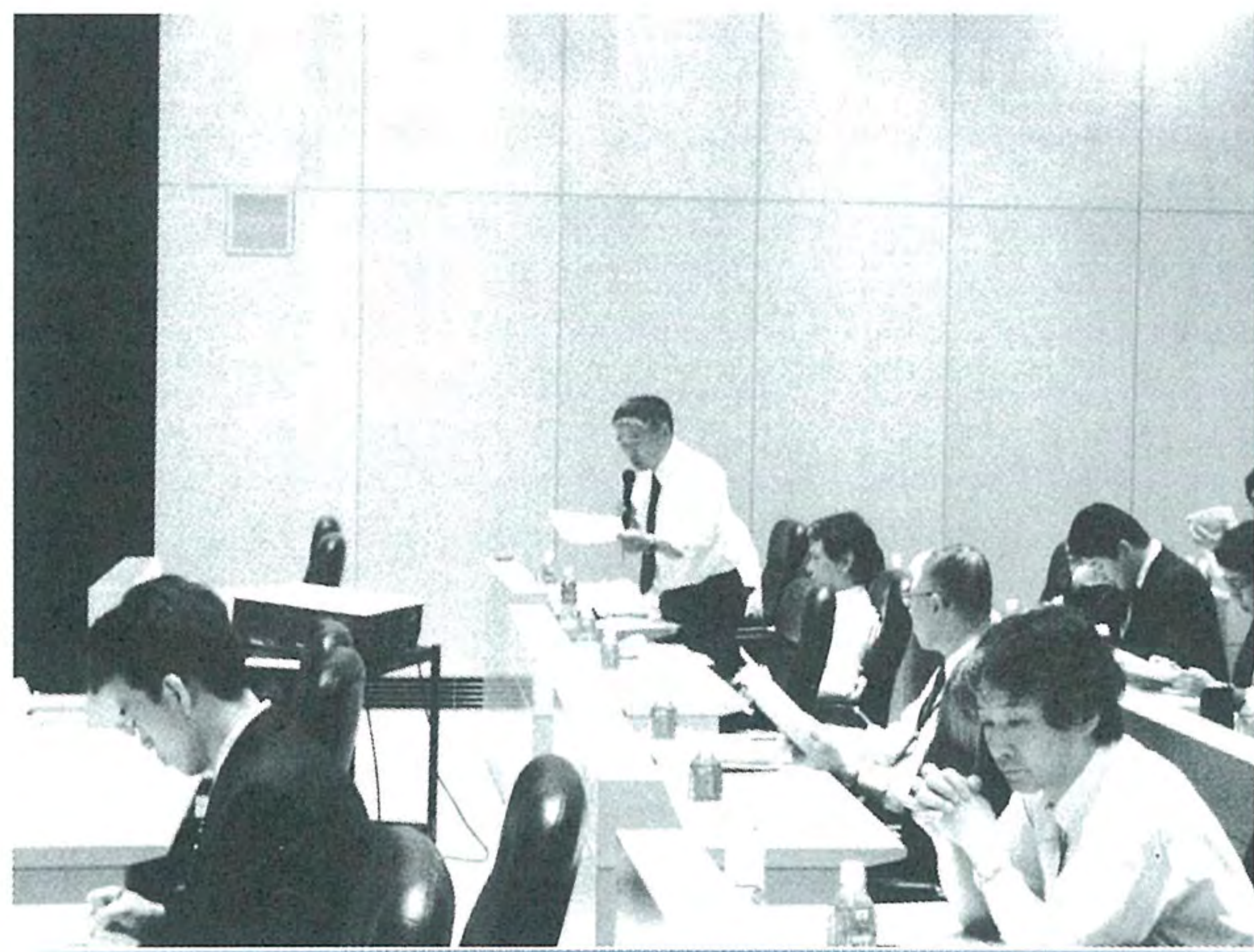
31

志願者数の推移



32

会場風景



国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

制 定 平成15年6月4日

最終改正 平成22年6月7日

(名 称)

第1条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

(目 的)

第2条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

(構 成 員)

第4条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、別表に掲げる機関とする。

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役 員)

第5条 本会に以下の役員を置く。

- 一 会 長 1名
- 二 事務局 長 1名
- 三 運営委員 各加盟機関からの代表1名
- 四 幹 事 運営委員の中から会長の委嘱6名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は2年とし、再選を妨げない。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあて

(役員の仕事)

第6条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

3 運営委員は、本会の運営に携わる。

(事務局)

第7条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑 則)

第8条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附 則

この会則は、平成17年6月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成18年5月31日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年5月29日から施行する。

附 則

この会則は、平成20年5月25日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年5月19日から施行する。

附 則

この会則は、平成22年6月7日から施行する。

別表 (第4条第2号関係)

北海道大学アドミッションセンター
 旭川医科大学入学センター
 岩手大学大学教育総合センター
 東北大学入試センター
 山形大学エンロールメント・マネジメント室
 茨城大学入学センター
 筑波大学アドミッションセンター
 横浜国立大学大学教育総合センター
 福井大学アドミッションセンター
 富山大学アドミッションセンター
 静岡大学全学入試センター
 京都工芸繊維大学アドミッションセンター
 鳥取大学入学センター
 岡山大学アドミッションセンター
 広島大学入学センター
 山口大学アドミッションセンター
 香川大学アドミッションセンター
 愛媛大学アドミッションセンター
 高知大学総合教育センター
 九州大学アドミッションセンター
 佐賀大学アドミッションセンター
 長崎大学アドミッションセンター
 鹿屋体育大学アドミッションセンター
 琉球大学アドミッション・オフィス

国立大学アドミッションセンター連絡会議役員 2010年度

会 長：丸野俊一 九州大学理事・副学長（アドミッションセンター長）

事務局長：林 篤裕 九州大学高等教育開発推進センター教授

運営委員：下表

幹 事：下表の網掛けで表示

国立大学アドミッションセンター連絡会議 運営委員

大 学 名	氏 名	役 職 名
北 海 道 大 学	喜多村 昇	高等教育機能開発総合センター入学者選抜研究部長
旭川医科大学	坂 本 尚 志	入学センター教授
岩 手 大 学	永 野 拓 矢	大学教育総合センター准教授
東 北 大 学	石 井 光 夫	高等教育開発推進センター教授
山 形 大 学	福 島 真 司	エンロールメント・マネージメント室教授
茨 城 大 学	伊 藤 吾 朗	入学センター長
筑 波 大 学	白 川 友 紀	アドミッションセンター長
横浜国立大学	下 城 一	大学教育総合センター入学者選抜部門長
福 井 大 学	大久保 貢	アドミッションセンター准教授
富 山 大 学	船 橋 伸 一	アドミッションセンター入試情報広報室長（特命教授）
静 岡 大 学	寺 下 榮	全学入試センター長
京都工芸繊維大学	内 村 浩	アドミッションセンター教授
鳥 取 大 学	森 川 修	アドミッションセンター准教授
岡 山 大 学	垂 水 共 之	アドミッションセンター長
広 島 大 学	高 谷 紀 夫	入学センター長（副理事）
山 口 大 学	藤 井 大 司 郎	アドミッションセンター長
香 川 大 学	真 鍋 芳 樹	アドミッションセンター教授
愛 媛 大 学	井 上 敏 憲	アドミッションセンター副センター長・准教授
高 知 大 学	吉 尾 寛	総合教育センター入試部門長
九 州 大 学	林 篤 裕	高等教育開発推進センター教授
佐 賀 大 学	西 郡 大	アドミッションセンター准教授
長 崎 大 学	山 口 恭 弘	アドミッションセンター長（副学長）
鹿屋体育大学	前 田 明	アドミッションセンター長
琉 球 大 学	中 村 肖 三	アドミッション・オフィス室長

編集後記

第8回総会は、平成22年6月7日（月）に北九州国際会議場（福岡県北九州市）で開催されました。そこで本連絡会議ニュースには、丸野俊一会長のご挨拶と、大学からの報告として2件の講演要旨を掲載させていただきました。

丸野会長のご挨拶にもありますが、入試関係者に限らず教育関係者にとって、前年度は新型インフルエンザに振り回された年でありました。前回の総会開催時（平成21年5月）頃から全国的に流行が確認されはじめ、年度末までの長期間にわたり、消毒液やマスクの確保、また、追試験実施を想定しての膨大な下準備作業等々、多くの方々が翻弄された年であったと感じています。予防措置や各種の対策が功を奏して、危惧された程の流行には到らなかったのが幸いでした。

また、今回の「大学からの活動報告」では、「大括り入学」をテーマとしました。選抜を学科・専攻単位とはせずに学部一括で入学させ、進級途中から振り分ける形態を採る学部として、近年、農学部や薬学部の例が見られます。また、東京大学は以前から類型に分けてはいるものの大学単位での選抜をしており、この方法を採用する大学も幾つか出てきました。どの様な方策にも表裏があり、大括りにすることによる利点（ミスマッチの軽減、学問領域の蛸壺化の緩和、入学後の中だるみの排除、広い意味での“教養教育”等）や欠点（希望講座の遍在への対処、専門教育の後年次化等）を勘案しながら自大学にマッチした方策を模索する必要があるのでしょうか。そこで、今回大括り入学を復活させた北海道大学と、規模は遥かに小さいですが学部横断型教育ということで、本学の事例をご紹介させていただきました。皆様方のご検討の参考にさせていただければ幸いです。

本連絡会議が誕生して8年が経ち、参加されている大学も24大学となりました。充実期のアドミッションセンター連絡会議はどの様な形態で運営して行くのが好ましいのか、会員の皆様方と共に模索していければと考えております。次回は、早稲田大学で開催されます。皆様のご経験を持ち寄り、活発な情報交換の場となることを期待しております。

（事務局 林 篤裕）

第9回総会 開催案内

平成23年度の国立大学アドミッションセンター連絡会議の第9回総会を、次のように開催いたします。

日時 平成23年5月24日（火）12時30分～14時30分（予定）

場所 早稲田大学 小野記念講堂

東京都新宿区西早稲田1-6-1

なお、この連絡会議総会終了後の15時から、早稲田大学大隈記念講堂で大学入試センター主催のセミナーが開催される予定です。

また、翌日から2日間（5月25日（水）～26日（木））同講堂等において平成23年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第6回）が開催される予定です。

国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース 第8号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：九州大学アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

TEL:092-642-4486 FAX:092-642-4485